

金沢工業大学 御中

平成23年度 授業調査 報告書

2012.09.19

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	31
<6>同一学生群の分析	38
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8>全体のまとめ	48

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が7年目となるため、7年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査の集計自体は平成15年から実施している。)

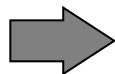
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	1年次生 38,972件 2年次生 36,191件 3年次生 25,188件 4年次生 2,685件 合計有効回答数 103,036件	※クラス未記入の回答(2件)、科目名などの基本項目が全て未記入の回答(27件)は集計から除いた。				
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。今回から前後期制となっている。					
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票 (比較不可)
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
	年度	前期	後期	全回答数	調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票	
	平成22年度	48,541	48,175	96,716		
	平成23年度	53,166	49,870	103,036		
対象科目	473科目					
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ・ 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



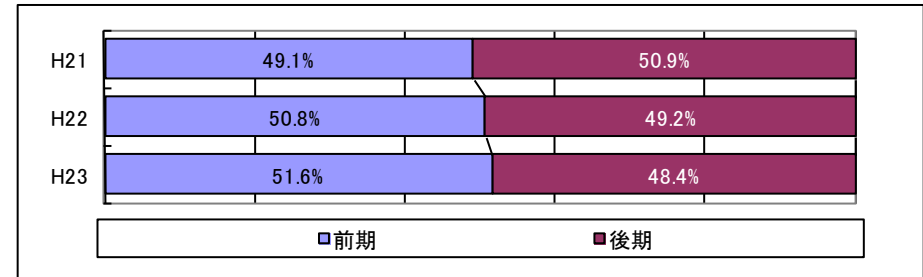
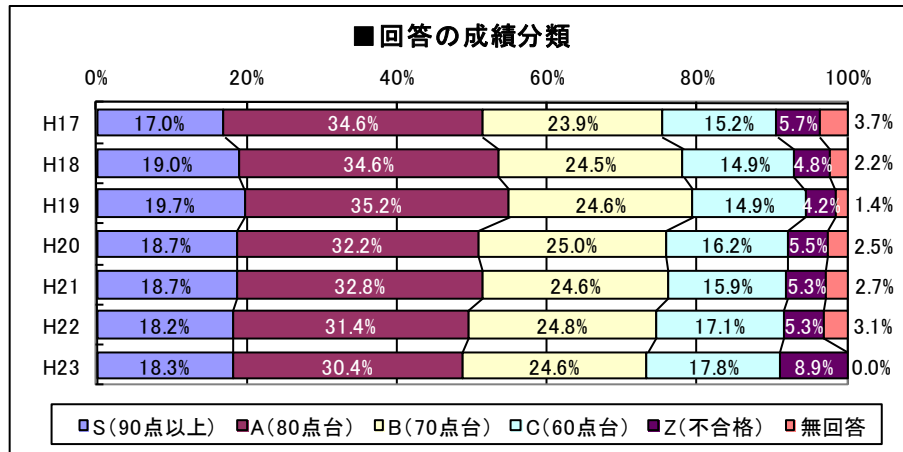
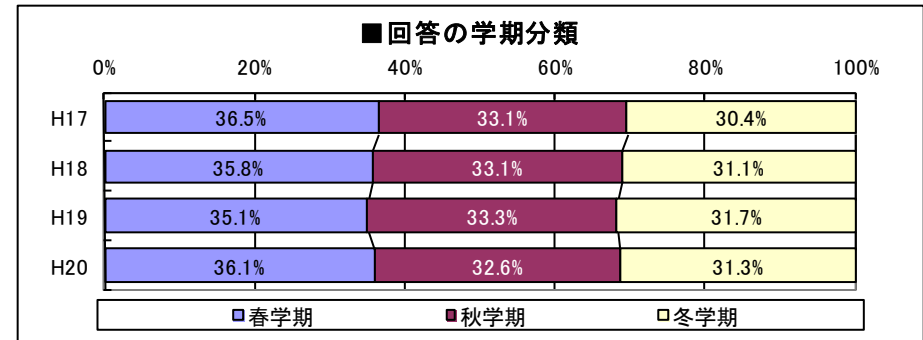
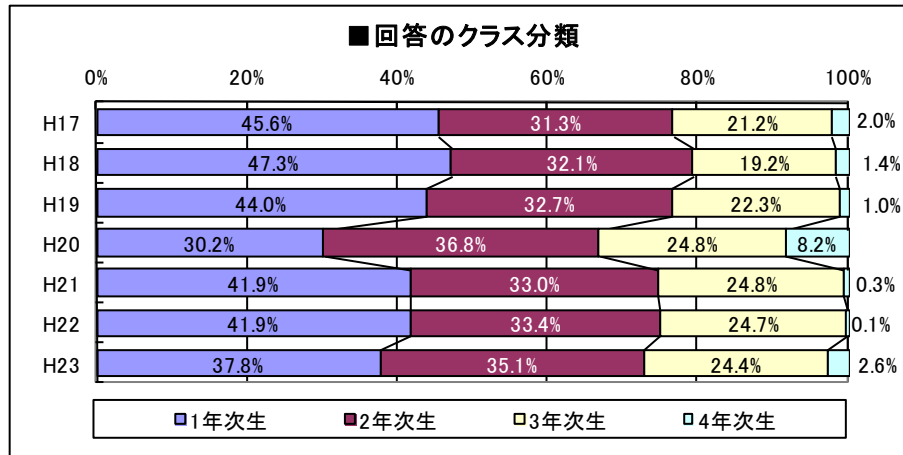
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることはできましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

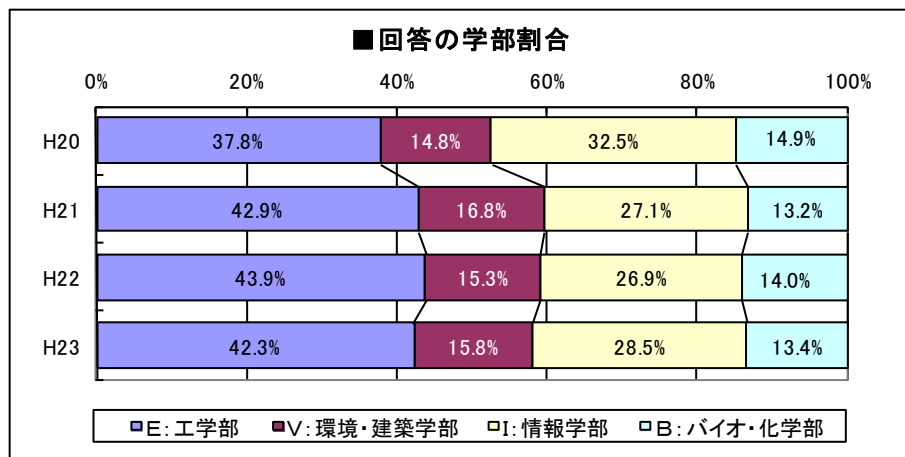
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

<1-2> 回答者の基本属性

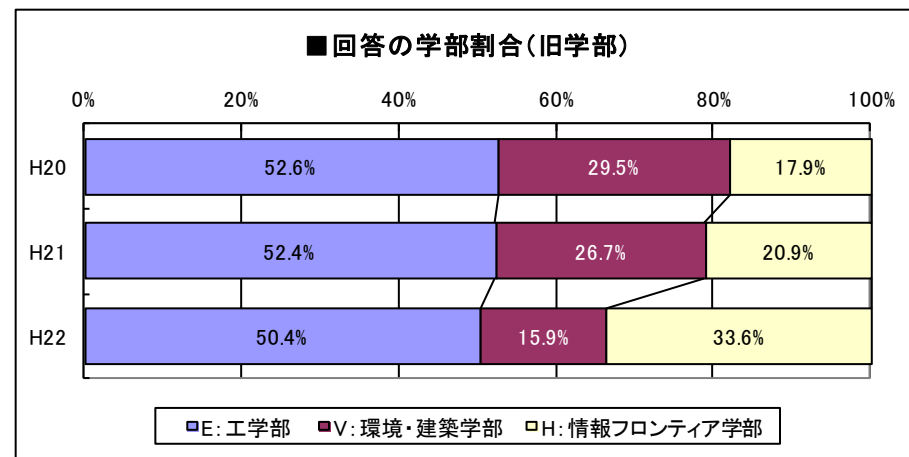
- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- クラスの分類では「1年次生」が37.8%、「2年次生」が35.1%、「3年次生」が24.4%、「4年次生」は2.6%であり、前回と比べると「4年生」がやや増加し、「1年生」が減少していた。
- 成績別の割合を見ると「S」が18.3%、「A」が30.4%、「B」が24.6%、「C」が17.8%、「Z」が8.9%であった。
- H21より学期が前期と後期の2期制となっているが、今回は前期が51.6%、後期が48.4%であり、前回と同様にほぼ半々となっていた。



- 古い学部体制の学年が卒業し、今回の調査より「1年次生」から「4年次生」までが同じ学部体制となった。「H:情報フロンティア学部」の留年生が全体の0.1%ほどを占めているが、このグラフからは除いている。また、学部別集計、学科別集計からも除いている。
- 学部別の割合を見ると「E:工学部」が42.3%と最も多く、次いで「I:情報学部」が28.5%、「V:環境・建築学部」が15.8%、「B:バイオ・化学部」が13.4%という割合であり、H22とほぼ同じ割合となっていた。



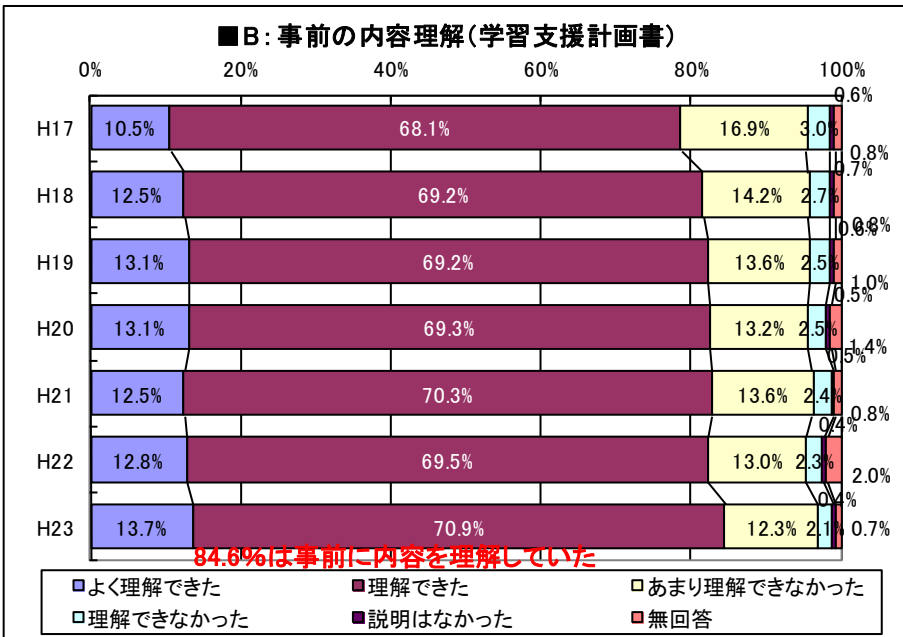
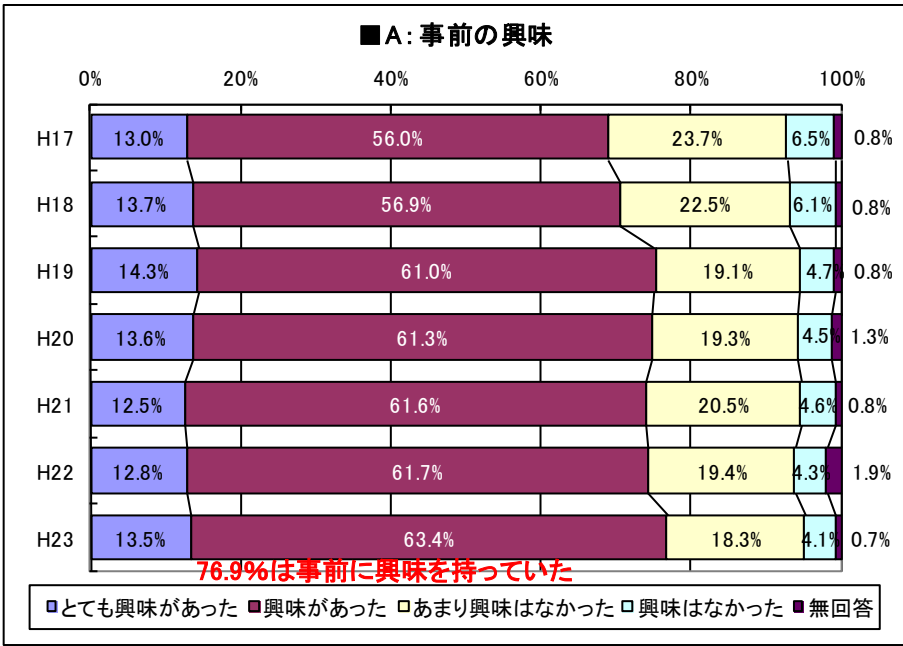
※上記はすべて新学部での学部割合であり、H20年度は「1年次生のみ」、H21年度は「1年次生～2年次生」、H22年度は「1年次生～3年次生」、H23年度は「1年次生～4年次生」の割合となる。



※上記は旧学部での学部割合であり、H20年度は「2年次生～4年次生」、H21年度は「3年次生～4年次生」、H22年度は「4年次生のみ」となる。

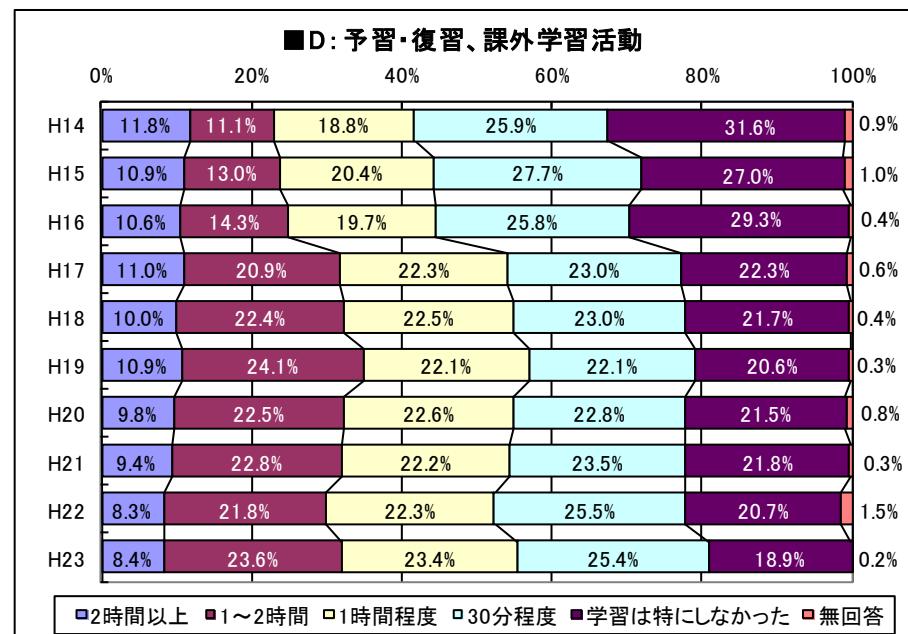
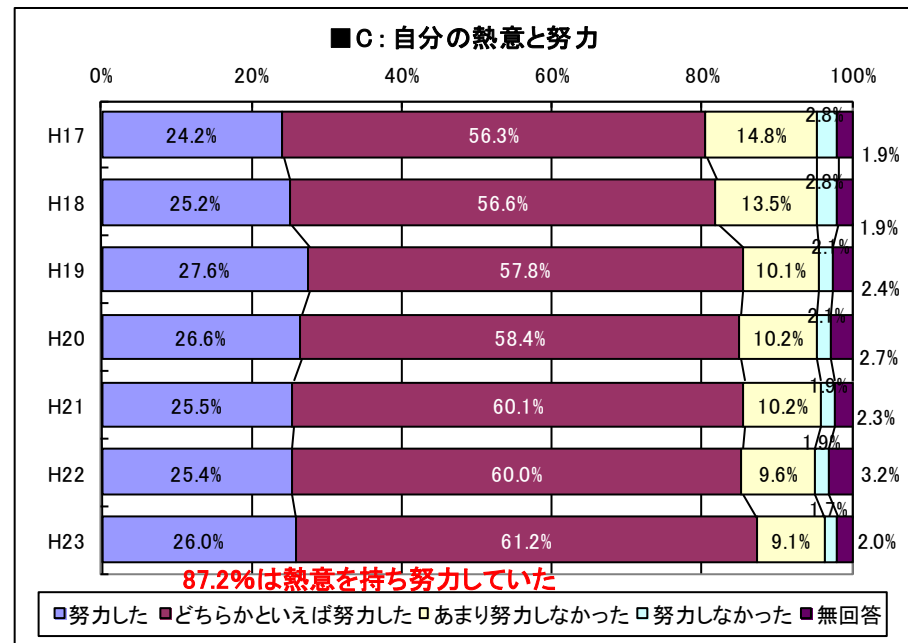
<2> 基本的な分析

- 今回の「A:事前の興味」を見ると、「とても興味があった」が13.5%、「興味があった」が63.4%であり、合わせると76.9%の学生が事前に興味を持って授業を受けていた。
- H19からH22まではほとんど変化が見られなかったが、今回は興味があったという回答が前回よりも2.4ポイント増加しており、これまでで最も高くなっていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では、「よく理解できた」が13.7%、「理解できた」が70.9%であり、合わせて84.6%が事前に授業内容を理解していると答えていた。
- 「事前の内容理解」についてもH19からH22まではほとんど変化が見られなかったが、今回は前回は2.3ポイント上回っており、これまでで最も高くなっていた。

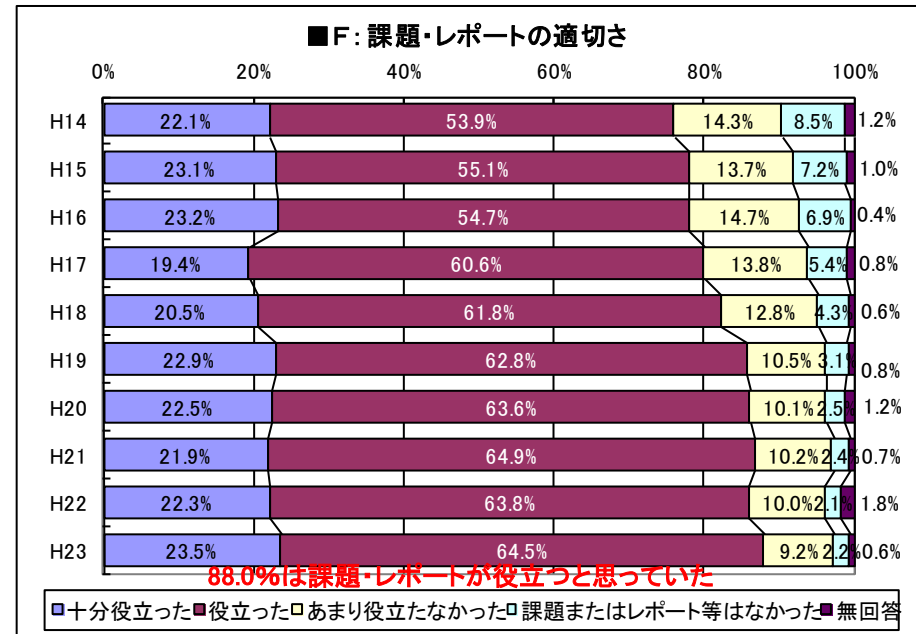
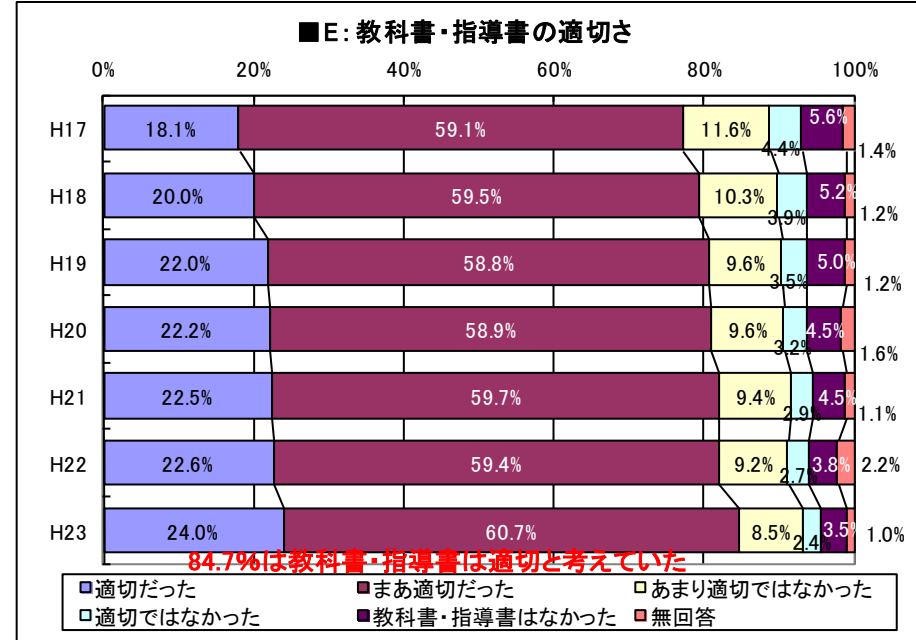


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であったが、「努力した」が26.0%、「どちらかといえば努力した」が61.2%であり、合わせて87.2%が熱意を持って努力したという回答であった。
- 以前との比較では、前項と同様、H19からH22まではほとんど差は見られなかったが、H23は肯定的な回答が前年を1.8ポイント上回っており、ここでも今までで最も多くなっていた。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか?」という質問であったが、「2時間以上」が8.4%、「1~2時間」が23.6%、「1時間程度」が23.4%となっており、最も多かったのは「30分程度」の25.4%であった。
- 一方、「学習は特にしなかった」と答えた学生は18.9%であり、時間に差はあるものの8割の学生は予習、復習を行っているという回答であった。
- 以前との比較では、「学習は特にしなかった」が前回より1.8ポイント減少してこれまでに最も少なくなつて学習する学生が増加しており、「1時間程度」が前回より1.1ポイント増加していた。

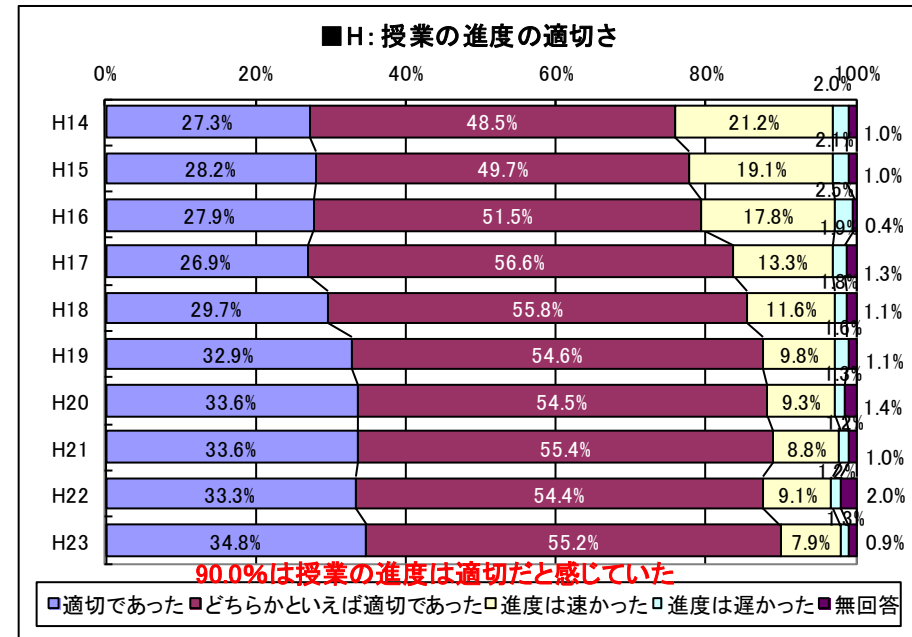
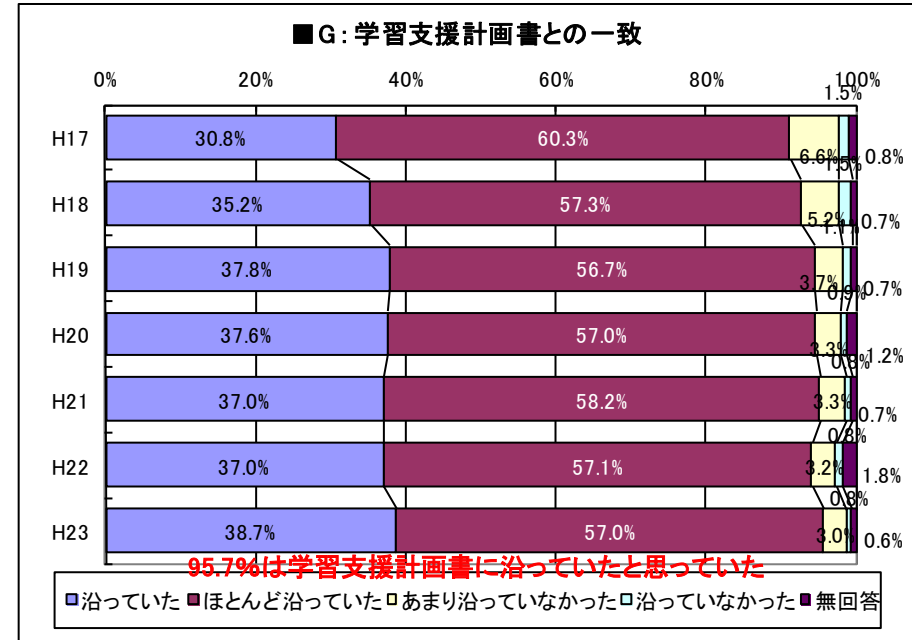
※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」



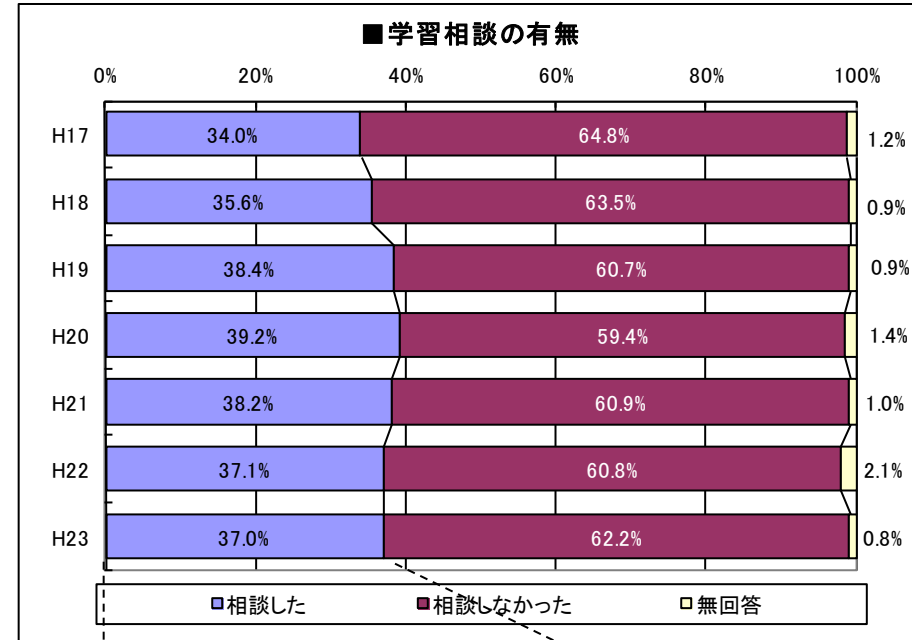
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」が24.0%、「まあ適切だった」が60.7%であり、合わせて84.7%が教科書・指導書が適切だったという肯定的な回答をしていた。
- 肯定的な意見は、わずかずつではあるがH17より継続的に増加していた。そして、今回は前回を2.7ポイントと大きく上回っており、これまでで最も高い評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」が23.5%、「役に立った」が64.5%であり、合わせて88.0%が役に立ったという意見であった。
- 肯定的な意見はH21まで増加傾向が続いていたが、H22にやや減少していた。そして、今回は前回を1.9ポイント上回っており、これまでで最も高い評価となっていた。



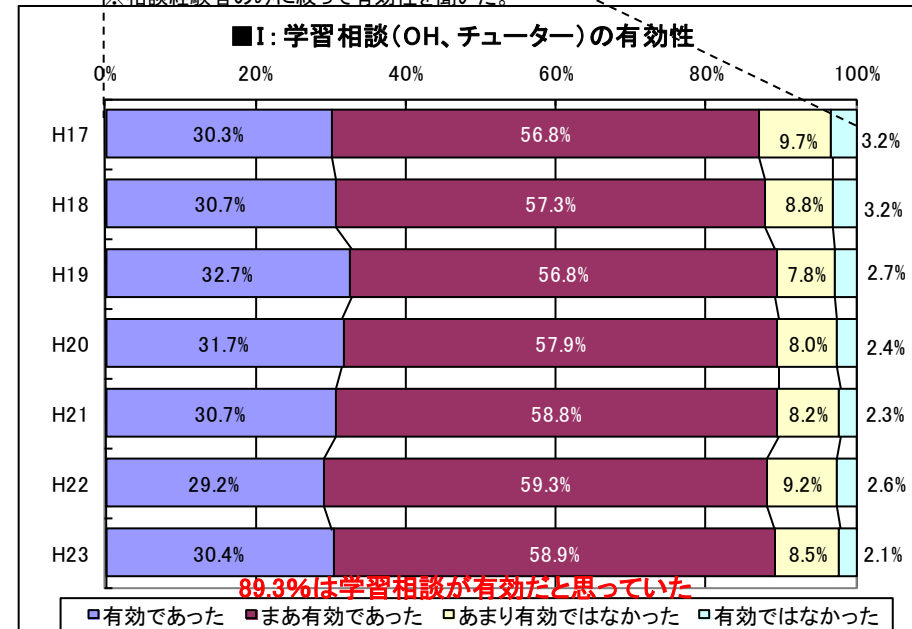
- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が38.7%、「ほとんど沿っていた」が57.0%であり、合わせると95.7%が学習支援計画書に問題はないと回答していた。
- これまでの評価と比較すると、H19からH21まではほとんど変化が見られなかったが、H22に肯定的な意見がわずかに減少し、今回は増加する傾向が見られた。特に「沿っていた」という回答は前回より1.7ポイント増加し、これまでで最も高かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」が34.8%、「どちらかといえば適切であった」が55.2%であり、合わせると90.0%が授業の進度は適切だと感じていた。
- H14からH21までは授業の進度が適切であるという意見が増加していたが、H22にわずかに低下していた。そして、今回は前回より2.3ポイント増加しており、これまでで最も高くなっていた。



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問をしたが、まず「学習相談の有無」だけを確認すると、「相談した」が37.0%、「相談しなかった」が62.2%であった。
- 「相談した」の割合はH20から減少する傾向が続いており、今回も0.1ポイントと、わずかではあるが前回より減っていた。
- 相談の経験がある学生の「学習相談の有効性」を見たところ、「有効であった」が30.4%、「まあ有効であった」が58.9%であり、全体の89.3%は学習相談が有効だと答えていた。
- 学習相談が有効であったという回答はH19からH21までは横這いで、H22にはわずかに減少していたが、今回は前回は0.8ポイント上回っていた。



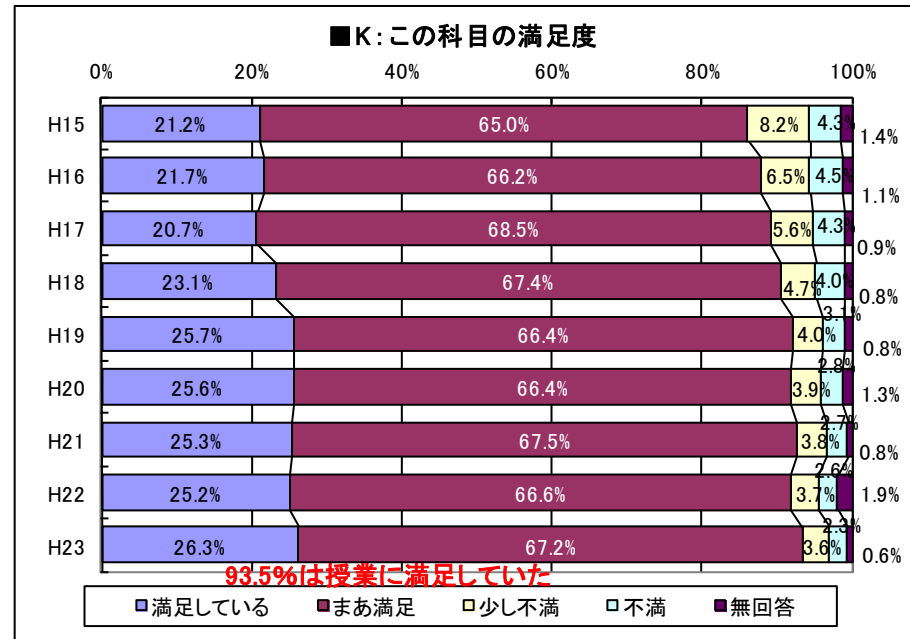
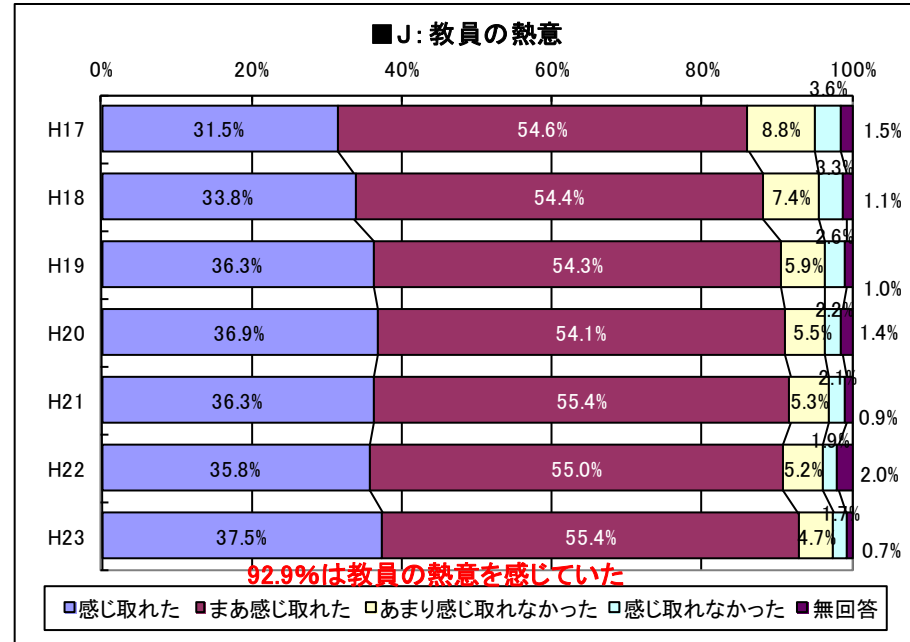
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が37.5%、「まあ感じ取れた」が55.4%であり、合わせて92.9%の学生が教員の熱意を感じていると答えていた。
- 肯定的な意見はH22にわずかに前年を下回っていたが、今回は前年を2.1ポイント上回っていた。特に「感じ取れた」という回答は前年を1.7ポイント上回っていた。
- 「K:この科目の満足度」に関しては「満足している」が26.3%、「まあ満足」が67.2%であり、合わせると93.5%は各授業に満足しているという回答であった。
- H15からH21までは授業の満足度は上がる傾向が続いていたが、H22には前年を1.0ポイント下回っていた。そして、今回は前年を1.7ポイント上回っており、これまでで最も高い満足度となっていた。
- 「満足している」という回答だけを見ても、前年を1.1ポイント上回っており、これまでで最も高くなっていた。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0
H23	93.5%	+1.7

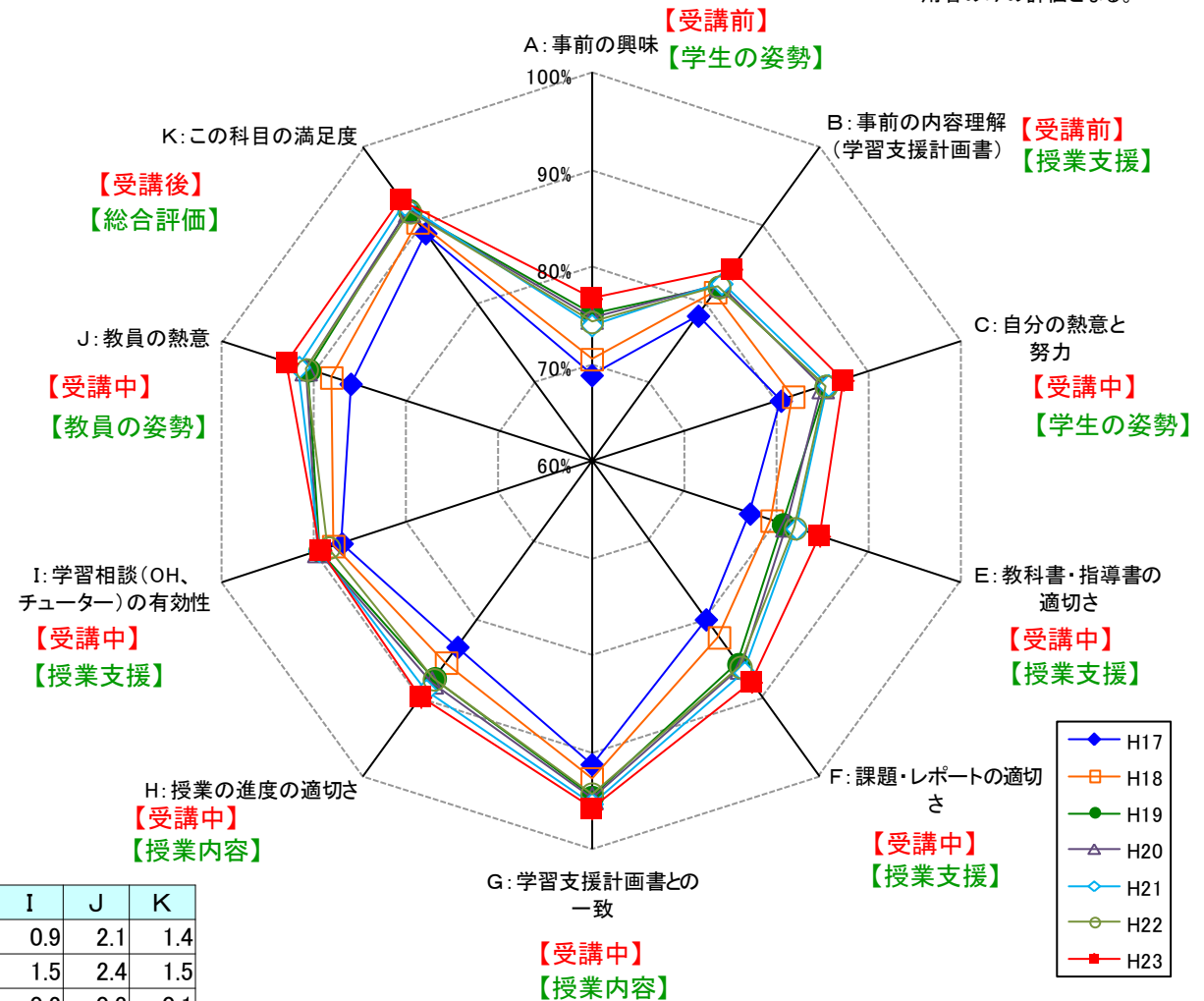


<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の合計をレーダーチャートにまとめたところ、右のようになった。
- 「D: 予習・復習、課外活動」は加えておらず、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけをプロットしている。
- 単純に肯定的な評価の割合だけを比較すると、「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」「K: この科目の満足度」の評価が高めであり、「A: 事前の興味」の低さが目立っていた。
- 以前との比較ではすべての項目が前回を上回っており、これまでで最も高くなっていた。
- 特に「E: 教科書・指導書の適切さ」は前回を2.7ポイント上回っており、「A: 事前の興味」「H: 授業の進度の適切さ」「B: 事前の内容理解」「J: 教員の熱意」も前回を2ポイント以上上回っていた。

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。

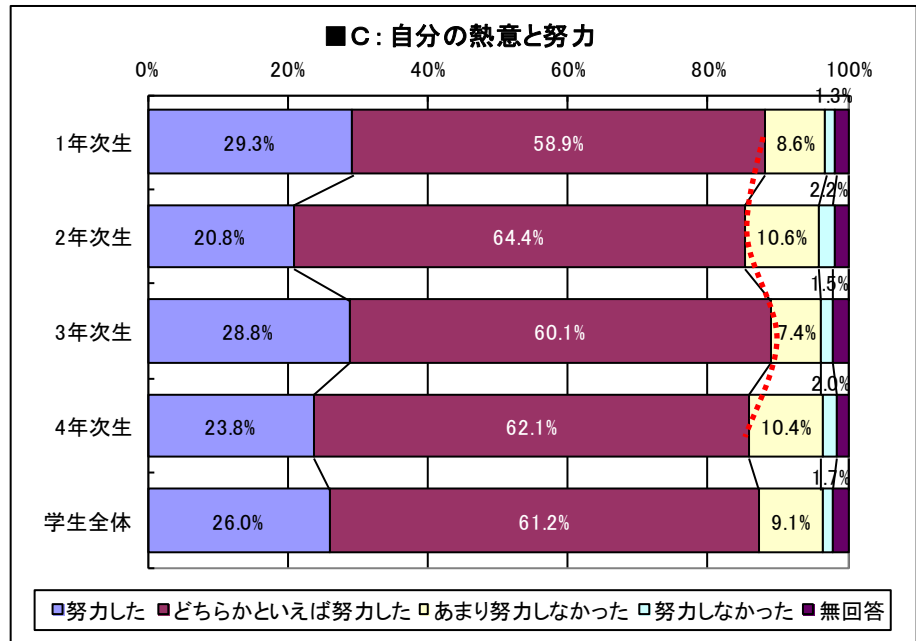
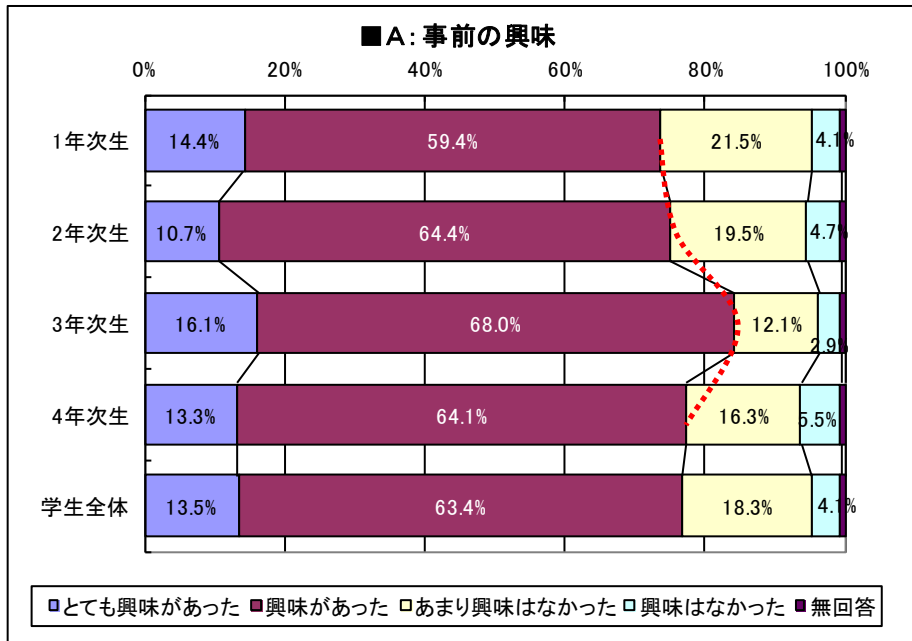
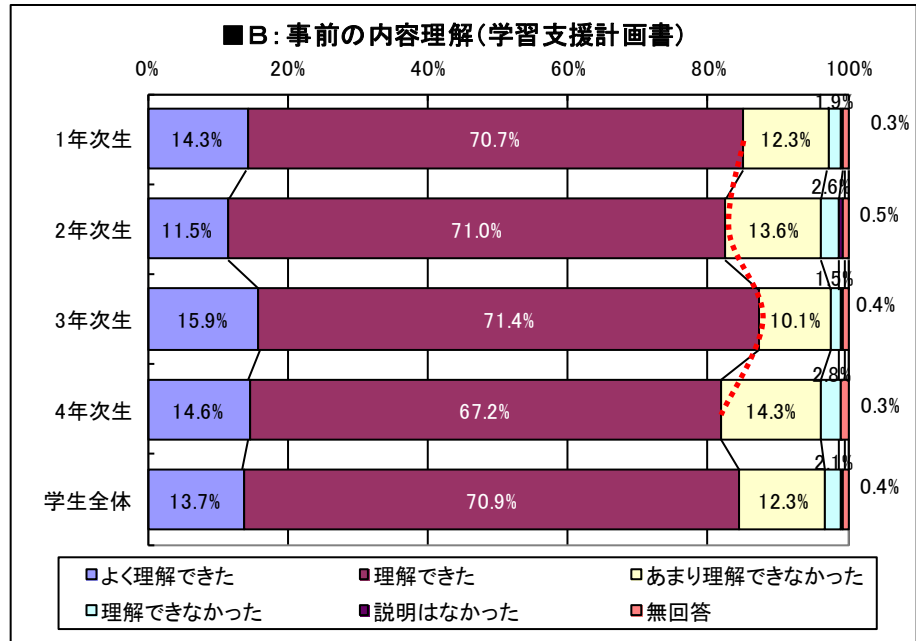


■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

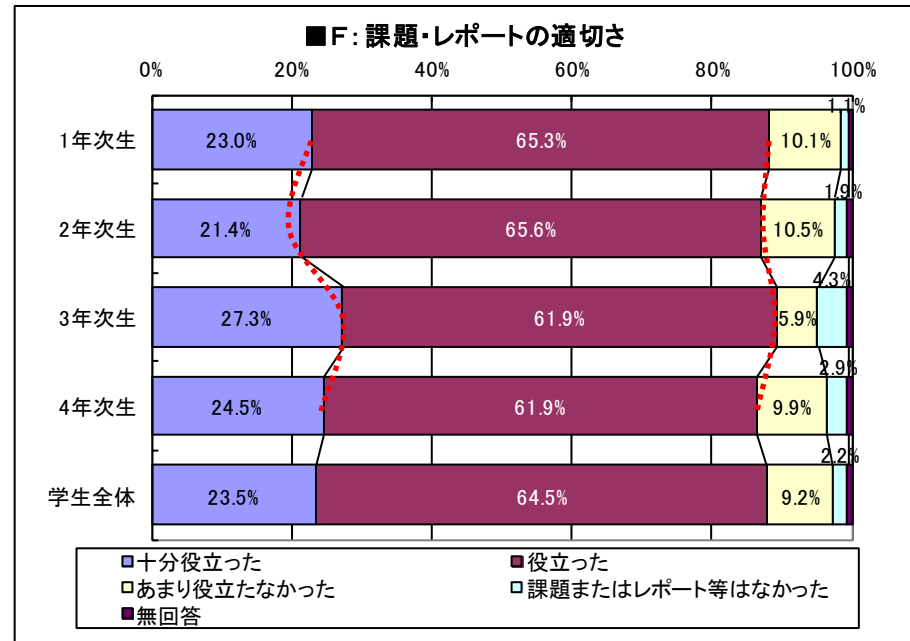
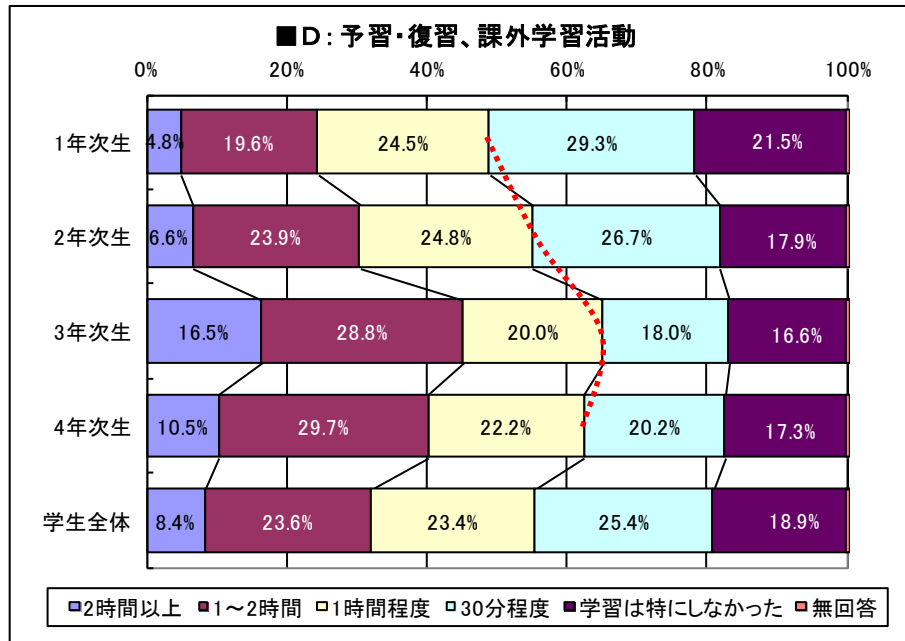
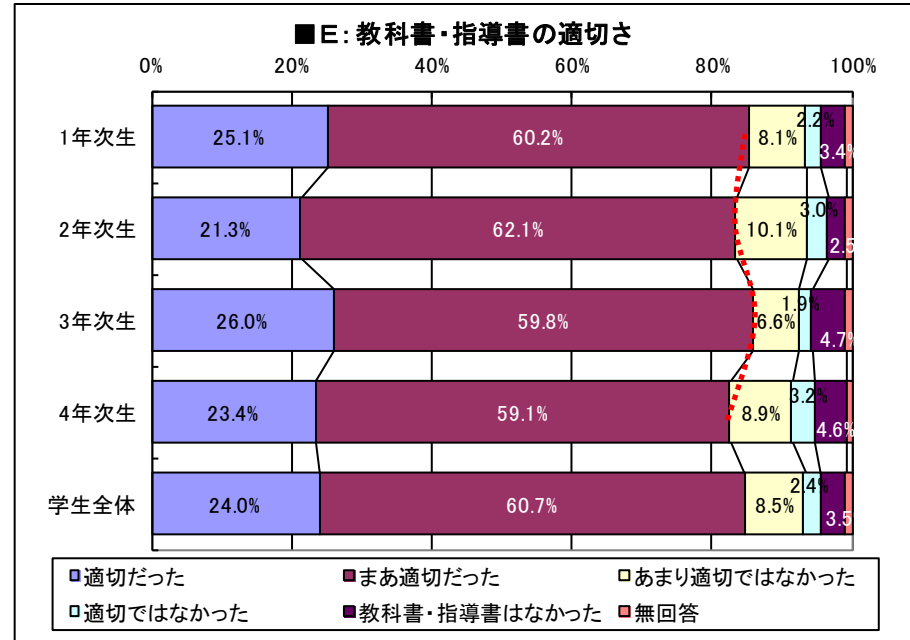
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7

<3> 学年別の分析

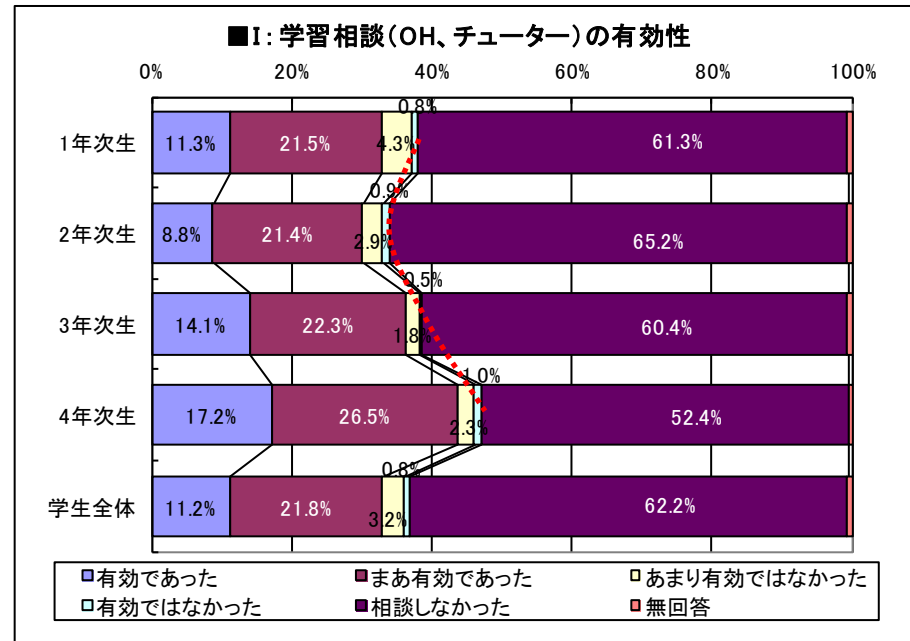
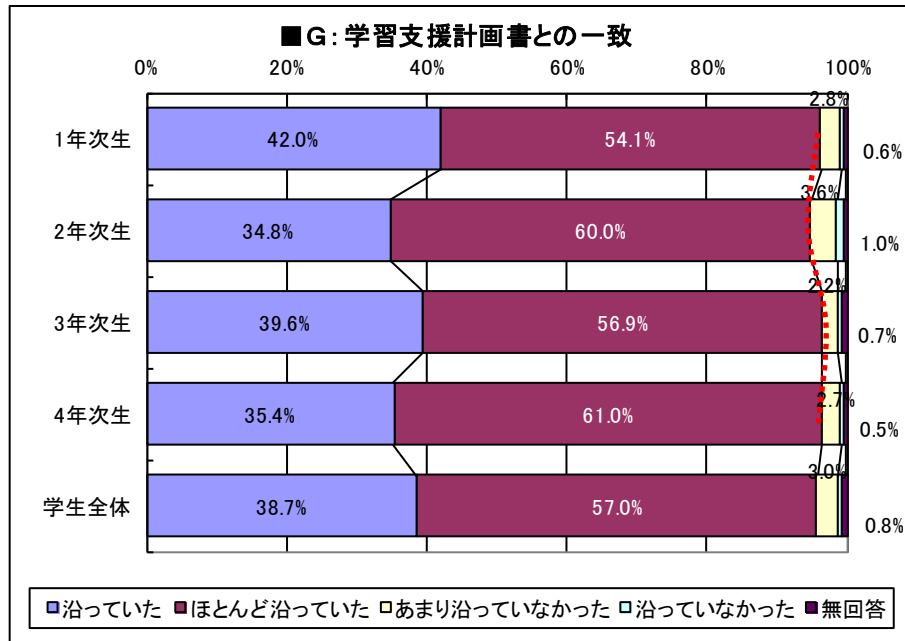
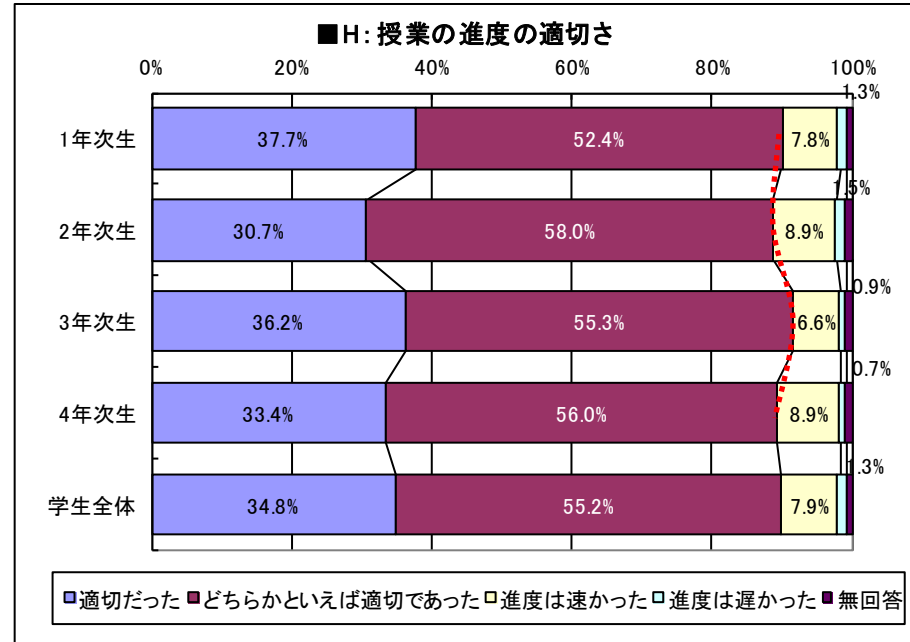
- 学年別に「A:事前の興味」を比較したところ、「3年次生」では84.1%が事前に興味を持っていたと答えており、全学年の中で最も高かった。次いで「4年次生」が77.4%、「2年次生」が75.1%、「1年次生」では73.8%となっており、この3学年の差は少ないものの「1年次生」の興味が低い点が気になる点と言える。
- 「B:事前の内容理解」は「1年次生」と「3年次生」で肯定的な意見が多く、「2年次生」と「4年次生」が低かった。「3年次生」では87.3%が肯定的な意見であり、最も低い「4年次生」(81.8%)との差は5.5ポイントであった。
- 「C:自分の熱意と努力」も「1年次生」と「3年次生」で肯定的な意見が多く、この2学年はほぼ同じ結果であった。一方、「2年次生」と「4年次生」は肯定的な意見が少なく、「2年次生」では「努力した」だけの回答を見ても20.8%と最も少なく、積極性が低いようであった。



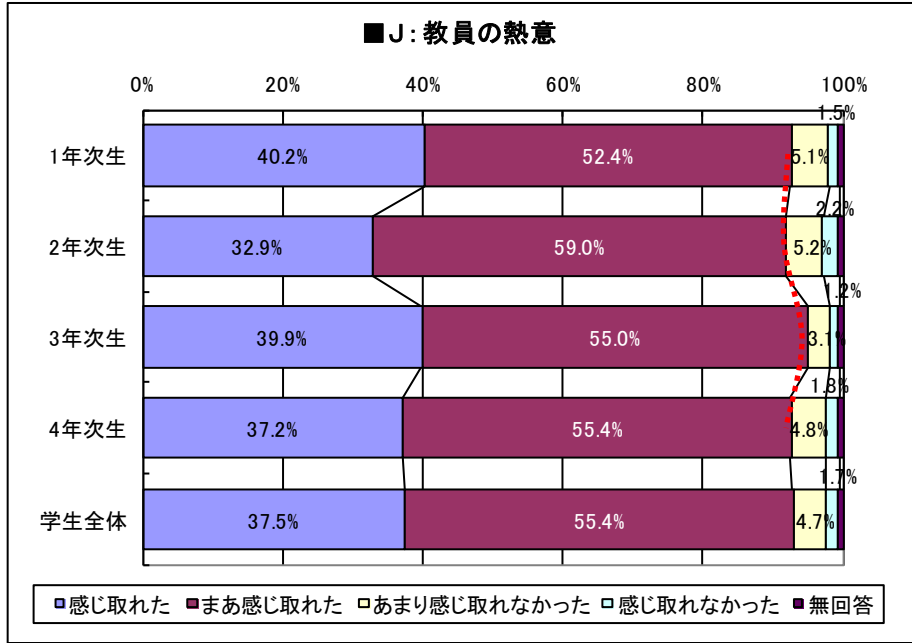
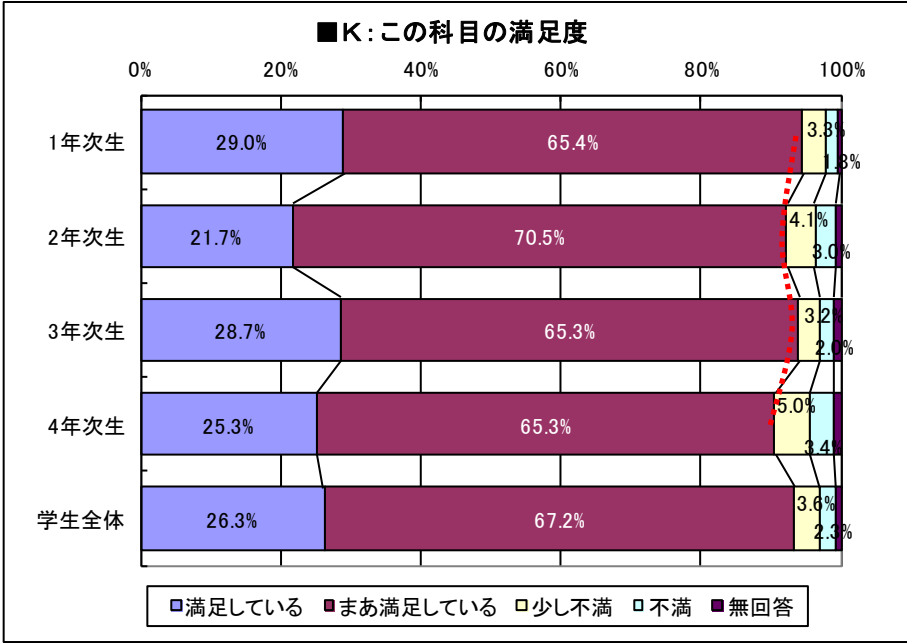
- 「D:予習・復習、課外学習活動」を「1時間程度」までの合計で学年別に比較したところ、「3年次生」が65.3%で最も勉強していることが分かった。次いで、「4年次生」「2年次生」「1年次生」の順となっていた。「1年次生」では「1時間程度」までの合計は48.9%であり、「学習は特にしなかった」が21.5%と最も多かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学年による差がそれほど大きくなかったが、「1年次生」と「3年次生」で肯定的な意見が多く、「2年次生」と「4年次生」で低めであった。特に「4年次生」では肯定的な意見が82.5%で最も低かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」について「十分役立った」と「役立った」の合計を比較すると、学部による差はほとんどなく、いずれの学部でも85%以上が肯定的な意見であった。「十分役立った」だけで比較すると「3年次生」がやや多く、「2年次生」が最も少なかった。



- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見の合計を見ると、いずれの学年も9割以上が肯定的な意見であり、学年による差は見られなかった。「沿っていた」という回答だけで比較すると、「1年次生」と「3年次生」は高く、「2年次生」と「4年次生」は低かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」で「適切だった」と「どちらかといえば適切であった」の合計で比較すると、「1年次生」と「3年次生」が高く、「2年次生」と「4年次生」はやや低かった。「適切だった」だけでは「2年次生」が30.7%と最も低く、「1年次生」が37.7%と最も高かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」を比較すると、「2年次生」では65.2%と最も学習相談を利用しておらず、「4年次生」では52.4%と半数程度が利用しているようであった。評価を見ると利用者の割合が多い「4年次生」の評価が高く、「2年次生」が最も厳しい評価となっていた。

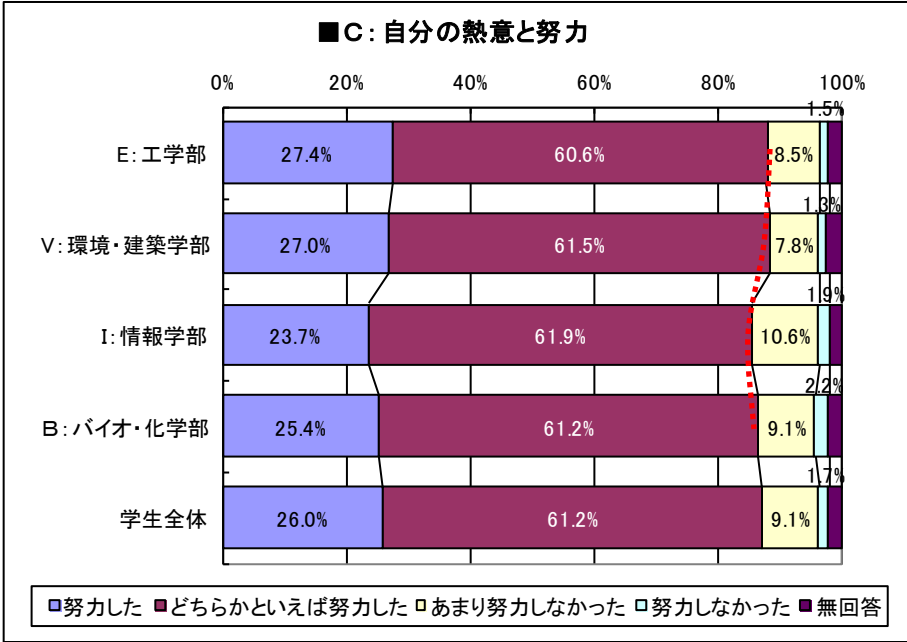
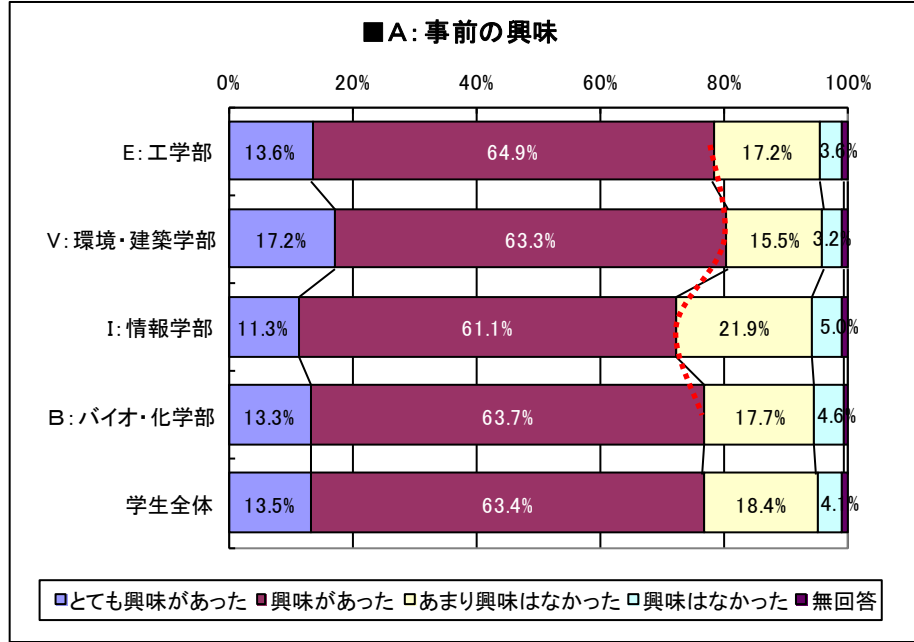
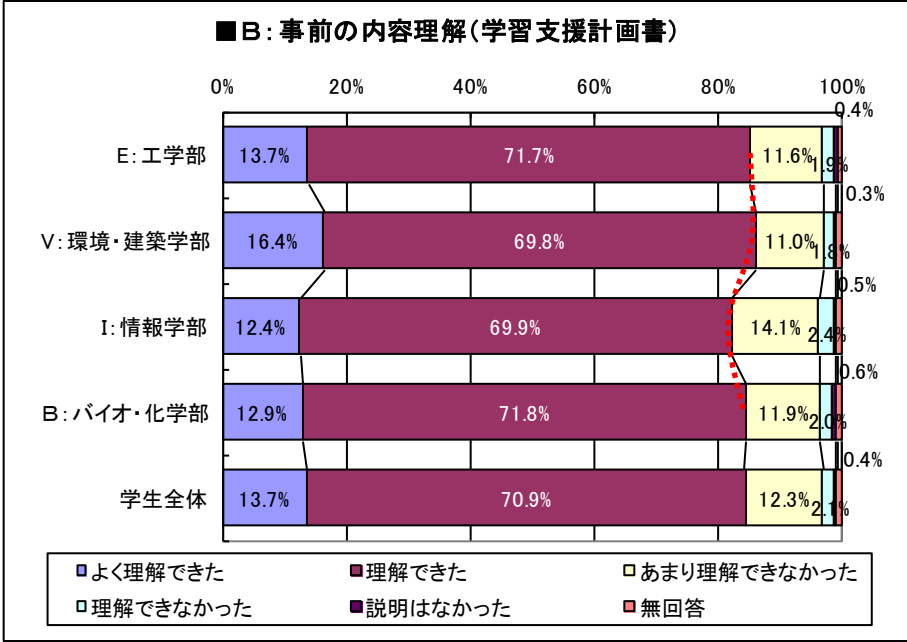


- 「J:教員の熱意」についてもいずれの学年も9割以上が肯定的な意見であり、学年による差は少なく、全学年で高い評価となっていた。「感じ取れた」だけで比較すると、「1年次生」「3年次生」が高めであり、「2年次生」が32.9%とやや低い評価となっていた。
- 「K:この科目の満足度」で「満足している」と「まあ満足している」の合計では「1年次生」が94.4%と最も高く、次いで「3年次生」が94.0%、「2年次生」が92.2%、「4年次生」が90.6%という順となっており、いずれの学年も9割以上が肯定的な評価であった。
- 「満足している」という回答だけを見ると「2年次生」が21.7%と最も低く、やや満足度が低い傾向が見られた。

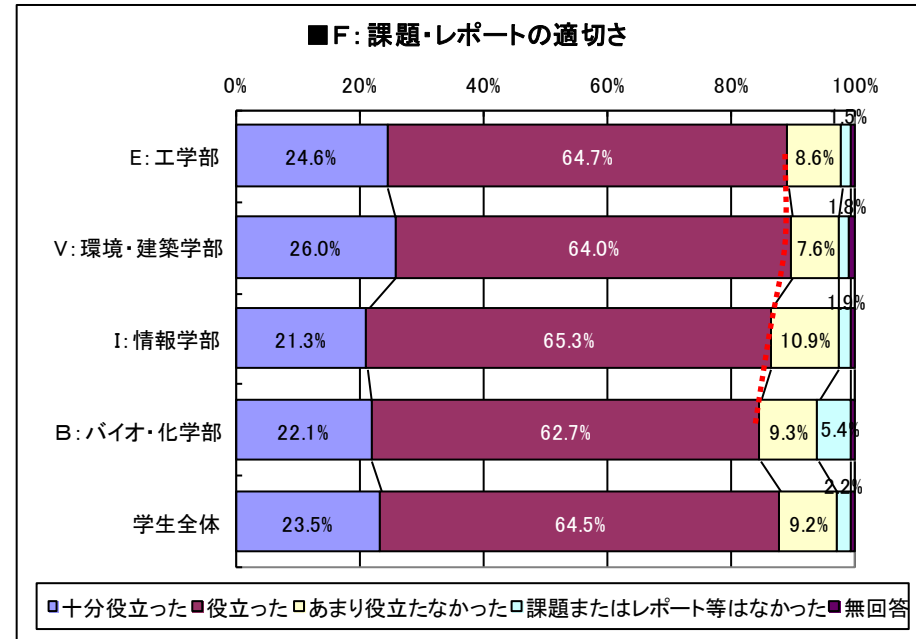
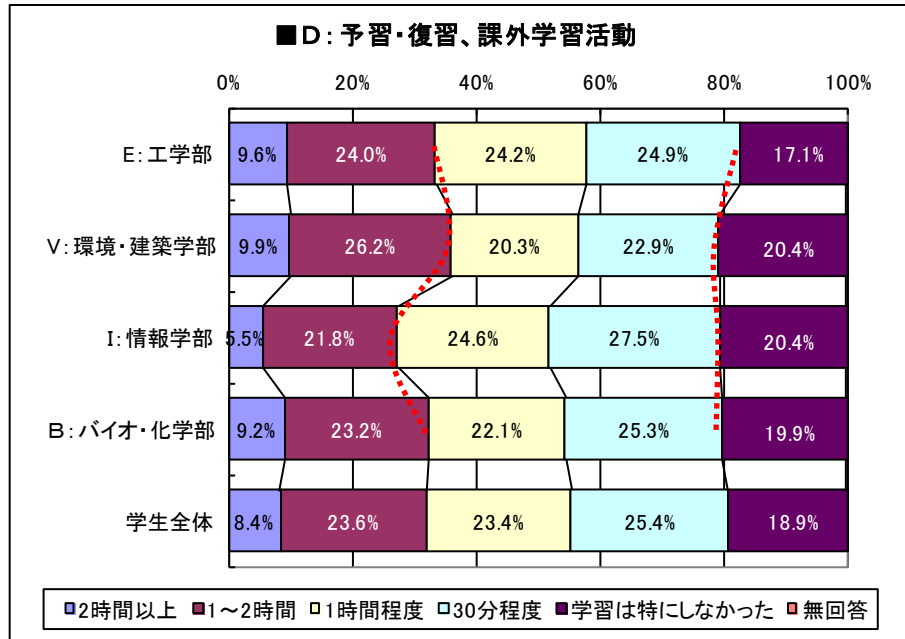
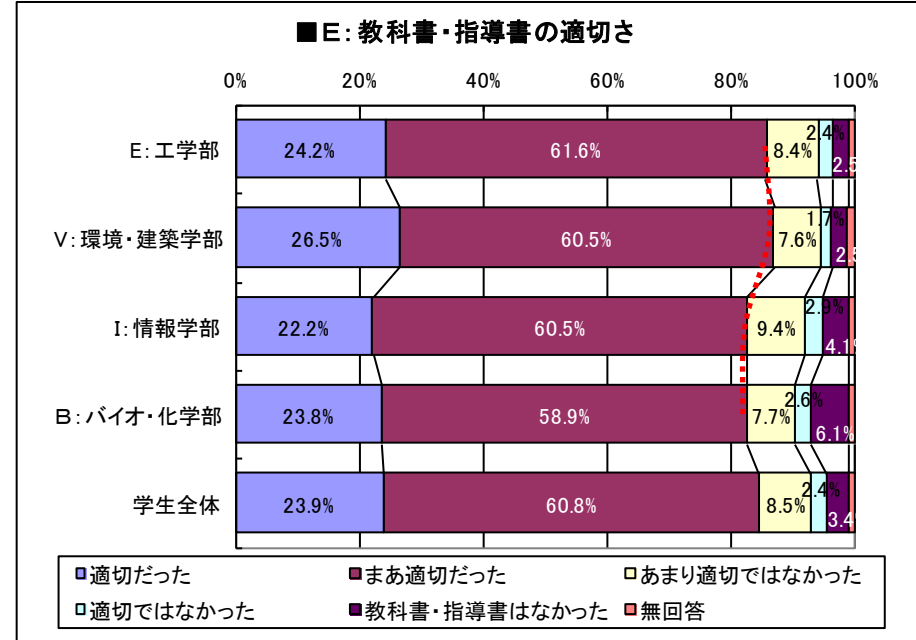


<4> 学部・学科別の分析

- 学部別の比較を行った。今回からは全学年で同じ学部構成となっている。
- 「A:事前の興味」を肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」の事前の興味が最も強く、「E:工学部」「B:バイオ・化学部」と続き、「I:情報学部」が最も低かった。
- 「B:事前の内容理解」を肯定的な意見の合計で比較すると、学部間の差は小さかったが、「I:情報学部」の低さが目立っており、事前の理解度が低いようであった。また、「よく理解できた」だけを見ると「V:環境・建築学部」がやや高く、理解度の高さがうかがえた。
- 「C:自分の熱意と努力」に関しても学部の差は小さかったが、「I:情報学部」で肯定的な意見が少な目であった。そして「努力した」だけを見ると「E:工学部」と「V:環境・建築学部」がやや高めであり、積極性が感じられた。

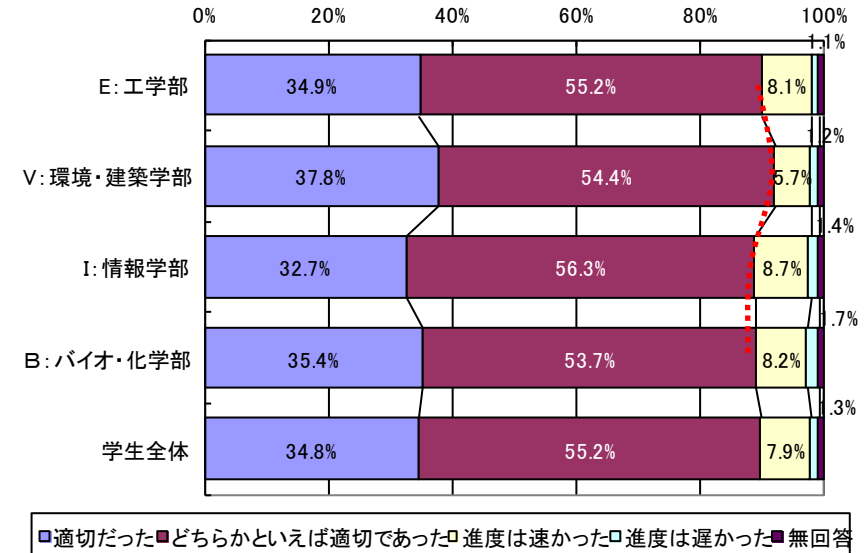


- 「D:予習・復習、課外学習活動」について「2時間以上」と「1～2時間」の合計を学部別に比較したところ、「V:環境・建築学部」の学習時間が最も長く、「I:情報学部」が最も短かった。「学習は特にしなかった」を見ると学部間の差は小さいものの、「E:工学部」が最も少なく、短い時間ではあるものの学習をしている学生が多いことが分かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、学部による差は小さかったが、「V:環境・建築学部」と「E:工学部」の評価がやや高く、「I:情報学部」と「B:バイオ・化学部」が低めの評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」を「十分役立った」と「役立った」の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」と「E:工学部」がほぼ同じで、この2学部では課題・レポートを高く評価していた。一方、「B:バイオ・化学部」の評価は最も厳しいものだったが、「課題またはレポート等はなかった」という回答が5.4%と多いという特徴も見られた。

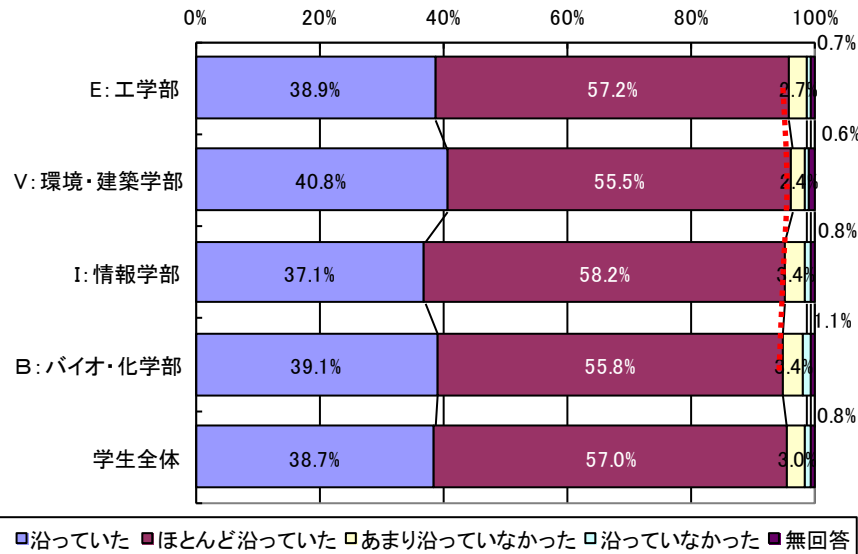


- 「G:学習支援計画書との一致」は学部間の差がほとんどなく、いずれの学部も95%前後が肯定的な意見であった。「沿っていた」だけで比較すると、「I:情報学部」がやや少な目であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学部間の差は少なかったが、「V:環境・建築学部」で肯定的な意見がやや多かった。「適切だった」だけで比較すると、「I:情報学部」の評価がやや厳しかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」において「相談しなかった」で比較すると、「V:環境・建築学部」が最も少なく、学習相談を積極的に利用している様子がうかがえた。そして、「E:工学部」と「I:情報学部」は同程度、「B:バイオ・化学部」が67.9%と最も多く、学習相談を利用していない学生が多かった。最も利用している「V:環境・建築学部」では、「有効であった」と「まあ有効であった」の合計が41.9%であり、高い評価であった。

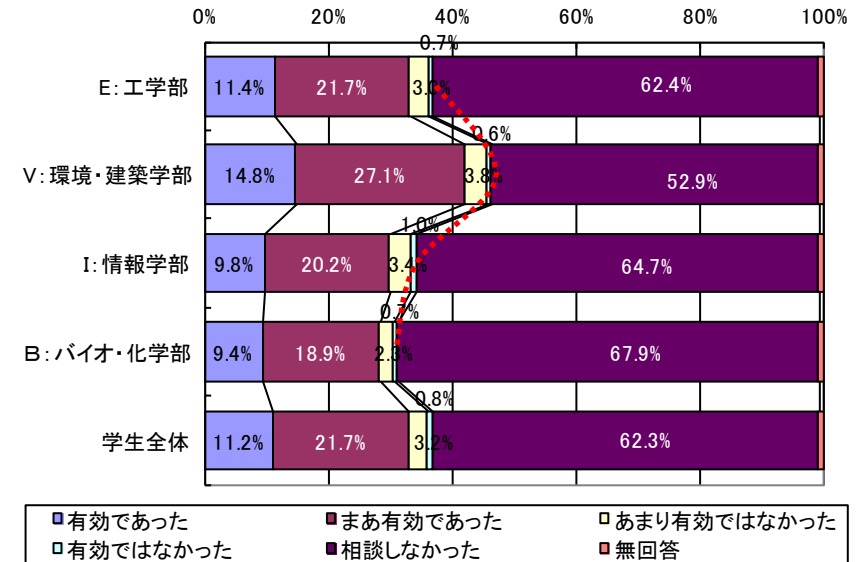
■H: 授業の進度の適切さ



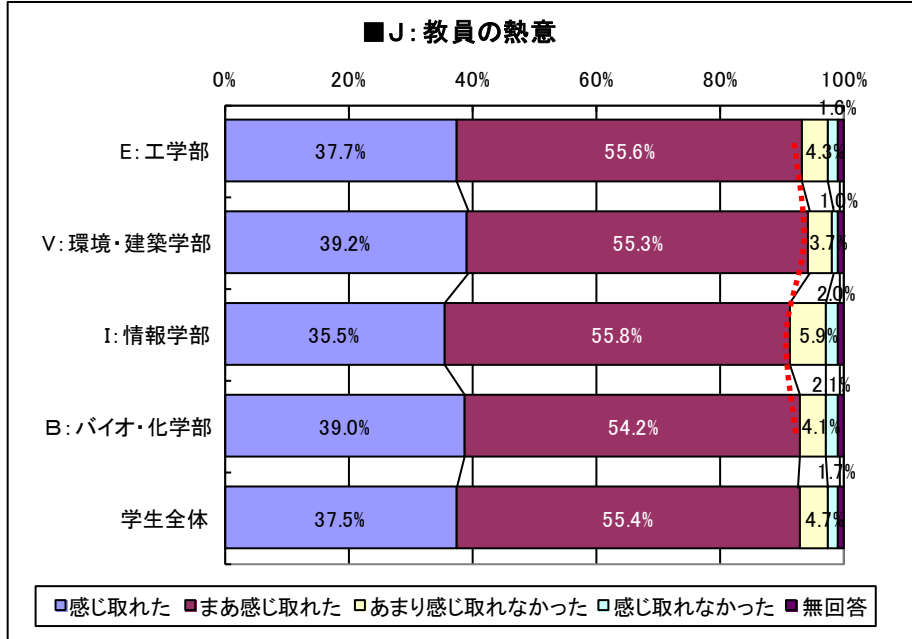
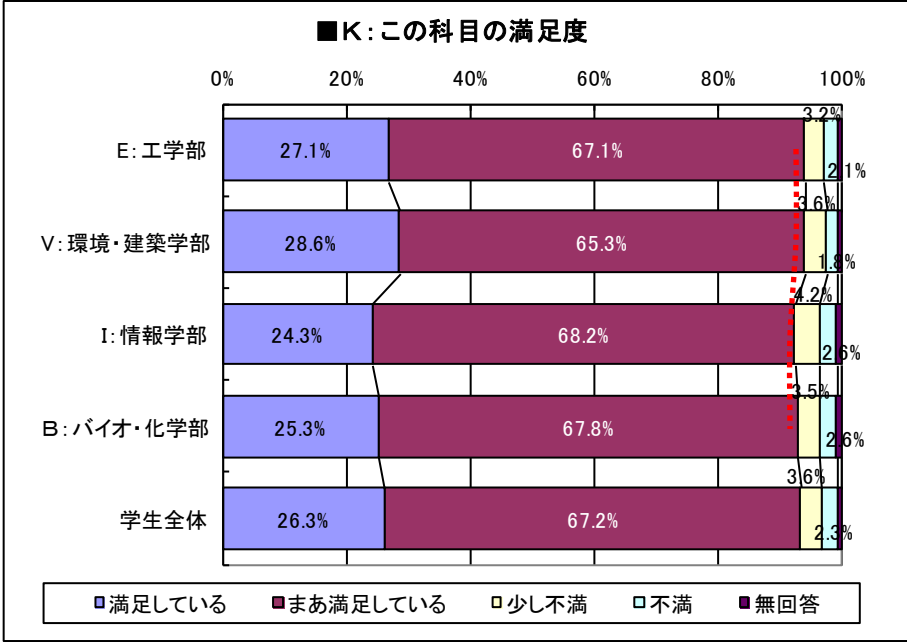
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



- 「J:教員の熱意」はいずれの学部でも9割以上が肯定的な意見であった。学部による差は非常に少ないものの、「I:情報学部」では肯定的な意見がやや少なかった。
- 「K:この科目の満足度」において「満足している」と「まあ満足している」の合計で比較すると、いずれの学部も9割以上が満足と答えており、学部による差はあまり見られなかった。ただし、「満足している」という回答だけを見ると「V:環境・建築学部」の満足度がやや高く、「I:情報学部」がやや低めとなっていた。



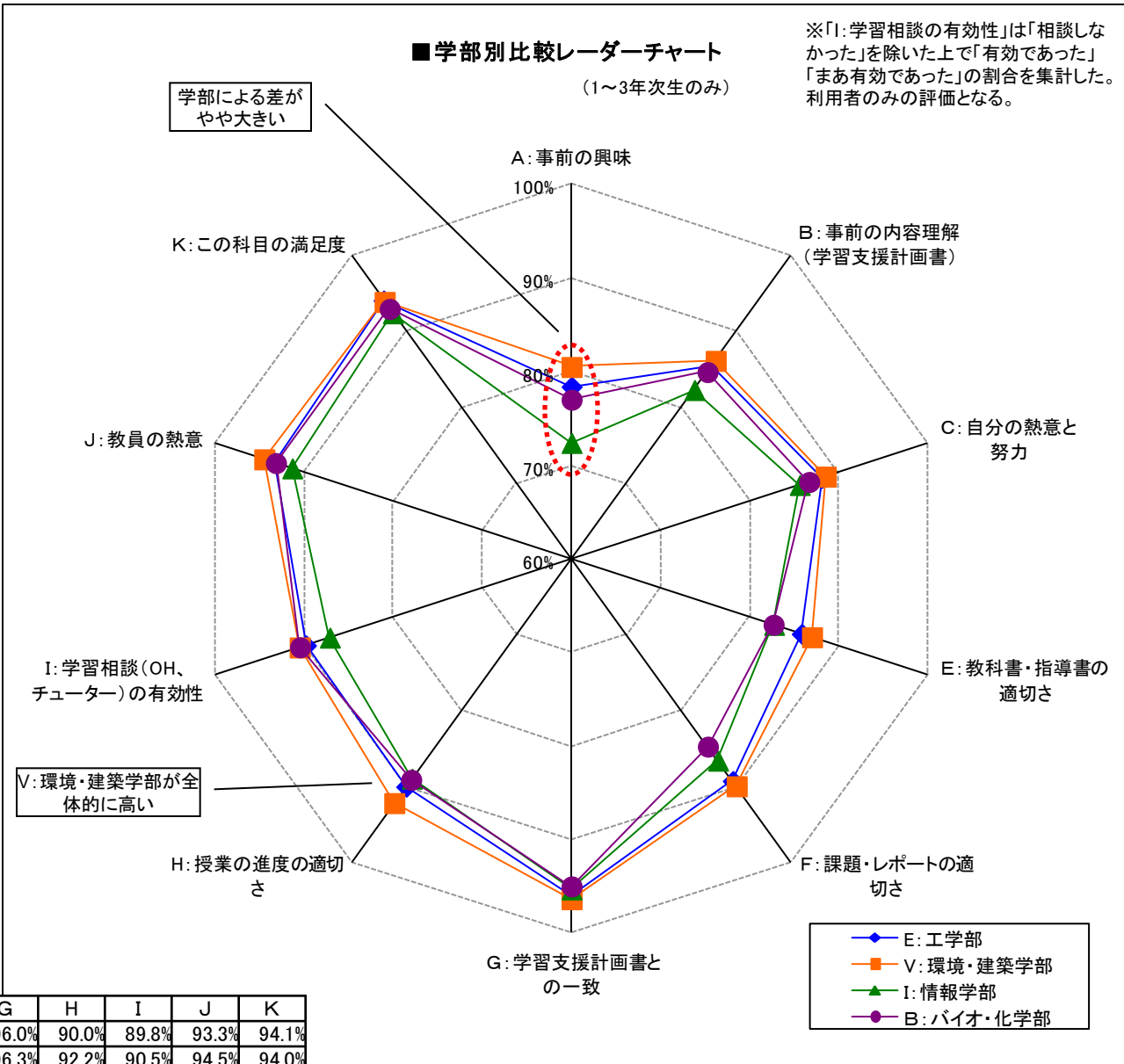
<4-2> 肯定的な意見の学部別比較

- 肯定的な意見の割合を学部別に比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- 学部の差は全体的にそれほど大きくはないが、ここまで見てきたように「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、「I:情報学部」がやや低めであった。
- 「A:事前の興味」は学部による差がやや大きく、「I:情報学部」の低さが目立っていた。
- 「E:工学部」は全体的に中庸な結果で、目立った特徴は見られなかった。「B:バイオ・化学部」にも目立った特徴は見られなかったが、「F:課題・レポートの適切さ」に対する評価は最も低かった。
- 「K:この科目の満足度」「G:学習支援計画書との一致」については学部による差が非常に少なかった。

■ 学部別比較レーダーチャート

(1~3年次生のみ)

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみでの評価となる。

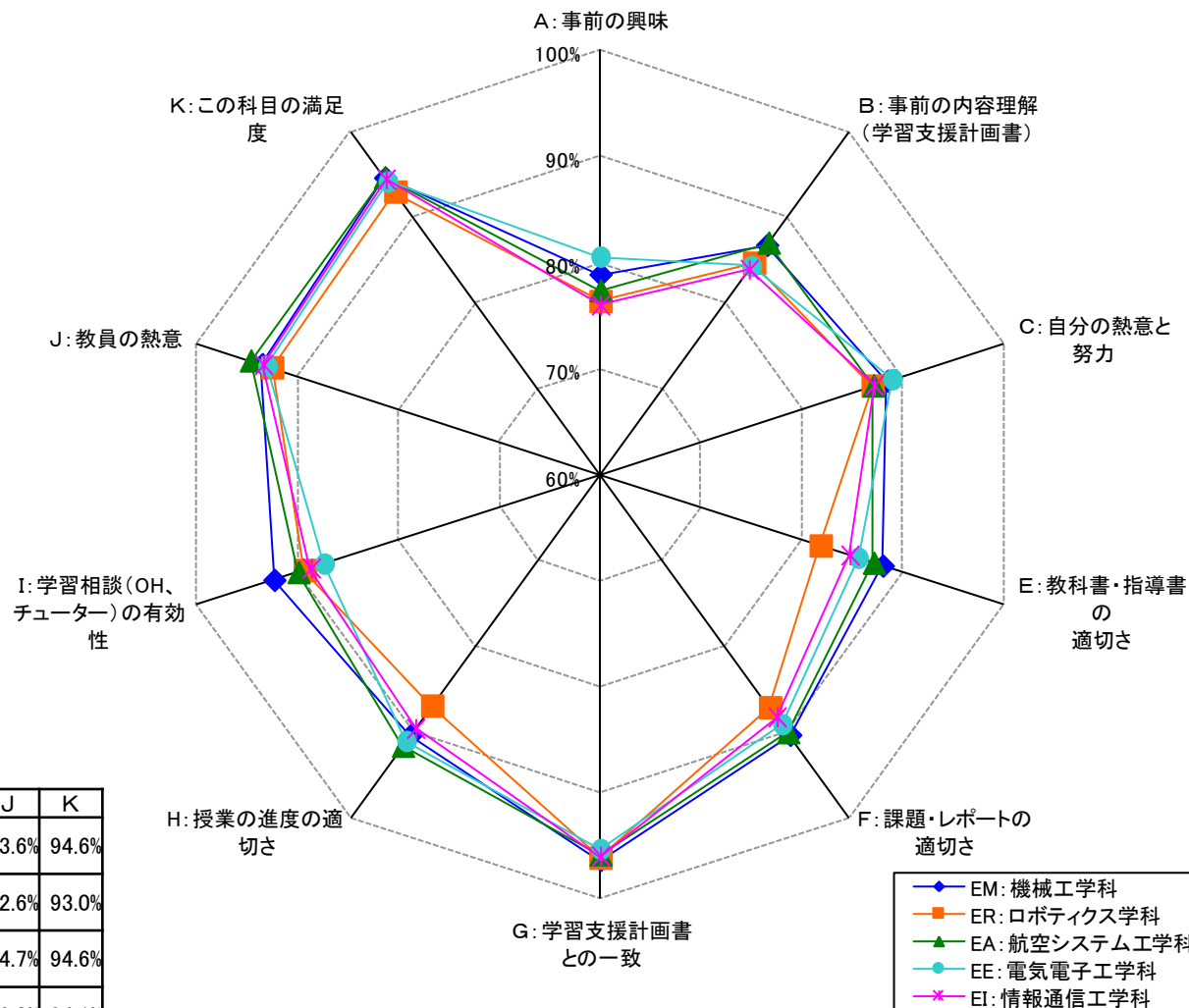


■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	78.4%	85.5%	88.1%	85.8%	89.3%	96.0%	90.0%	89.8%	93.3%	94.1%
V: 環境・建築学部	80.5%	86.2%	88.5%	87.0%	90.0%	96.3%	92.2%	90.5%	94.5%	94.0%
I: 情報学部	72.4%	82.3%	85.6%	82.7%	86.6%	95.3%	89.0%	87.1%	91.4%	92.5%
B: バイオ・化学部	77.0%	84.7%	86.7%	82.7%	84.8%	95.0%	89.1%	90.5%	93.2%	93.0%

- 学科の数が多いため、学科別の比較は全体での比較を行わず、学部毎に分けて比較した。
- 工学部の5学科で比較したところ、学科間の差はそれほど大きくなかったが、「EM:機械工学科」「EA:航空システム工学科」がやや高めであった。
- 一方、「ER:ロボティクス学科」は全体的に低めであり、特に「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「H:授業の進度の適切さ」の低さが目立っていた。
- 「EE:電気電子工学科」は「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」は高く、積極性が見られたが、「I:学習相談の有効性」は最も低く、特徴が見られた。
- 工学部では「K:この科目の満足度」「J:教員の熱意」「G:学習支援計画書との一致」に関しては学科による差が小さく、評価が一致していた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

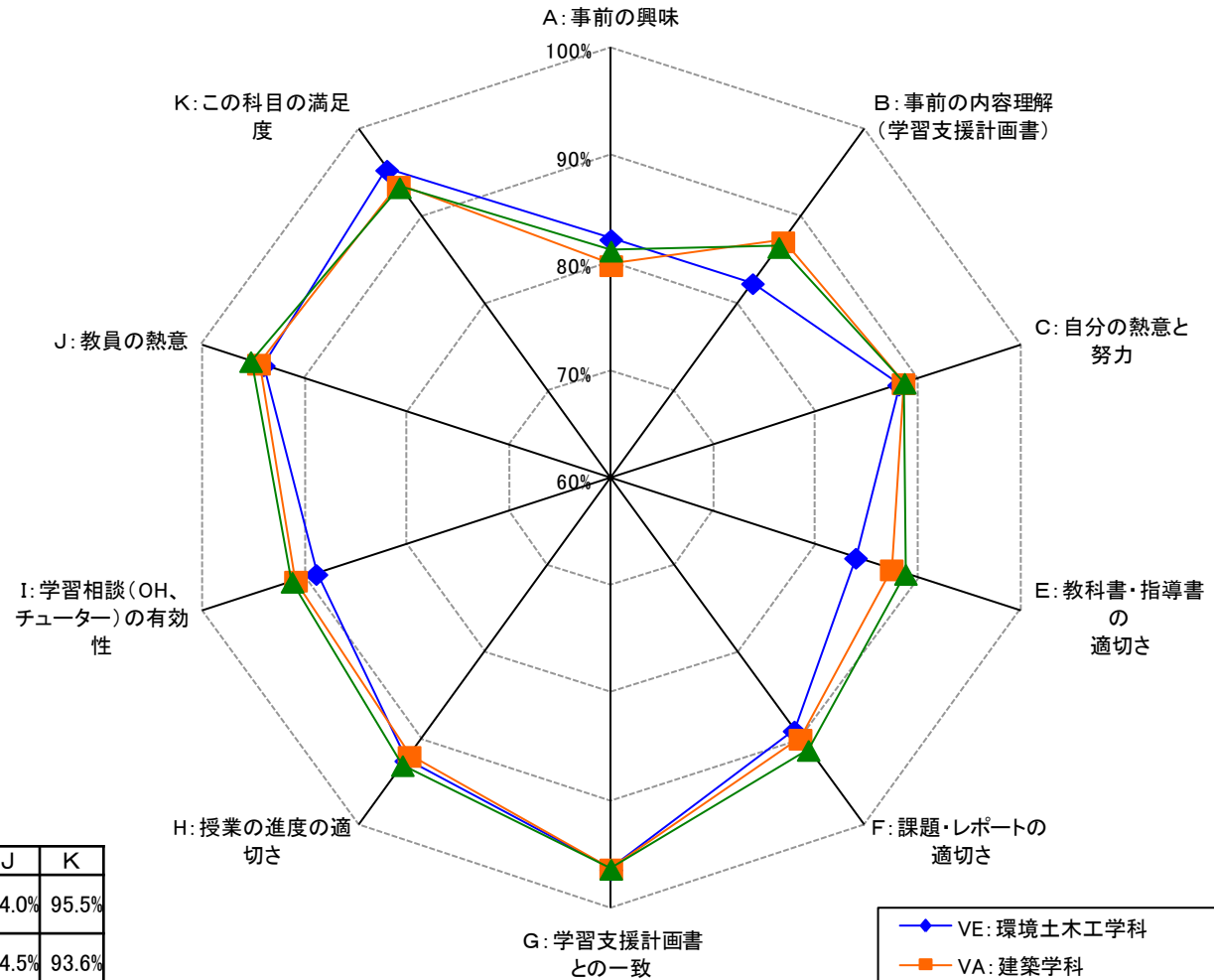


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	78.8%	86.7%	88.5%	88.0%	90.4%	96.4%	90.5%	92.4%	93.6%	94.6%
ER: ロボティクス学科	76.3%	84.6%	87.0%	81.8%	87.2%	96.2%	87.0%	89.3%	92.6%	93.0%
EA: 航空システム工学科	77.4%	87.0%	87.1%	87.1%	90.1%	95.9%	91.7%	90.0%	94.7%	94.6%
EE: 電気電子工学科	80.5%	84.3%	89.0%	85.6%	89.2%	95.4%	91.1%	87.4%	93.0%	94.1%
EI: 情報通信工学科	76.0%	83.9%	87.1%	84.7%	88.3%	96.1%	89.7%	88.7%	93.4%	94.4%

- 環境・建築学部の3学科でも、学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 学科毎に特徴が見られたが、全体的に「VD:建築都市デザイン学科」で肯定的な意見が多く、特に「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」の評価が高めであった。
- 「VE:環境土木工学科」は高いものと低いものがハッキリしており、「A:事前の興味」「K:この科目の満足度」は高かったが、「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」「I:学習相談の有効性」は低かった。
- 「VA:建築学科」には目立った特徴は見られなかったが、「A:事前の興味」は最も低かった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

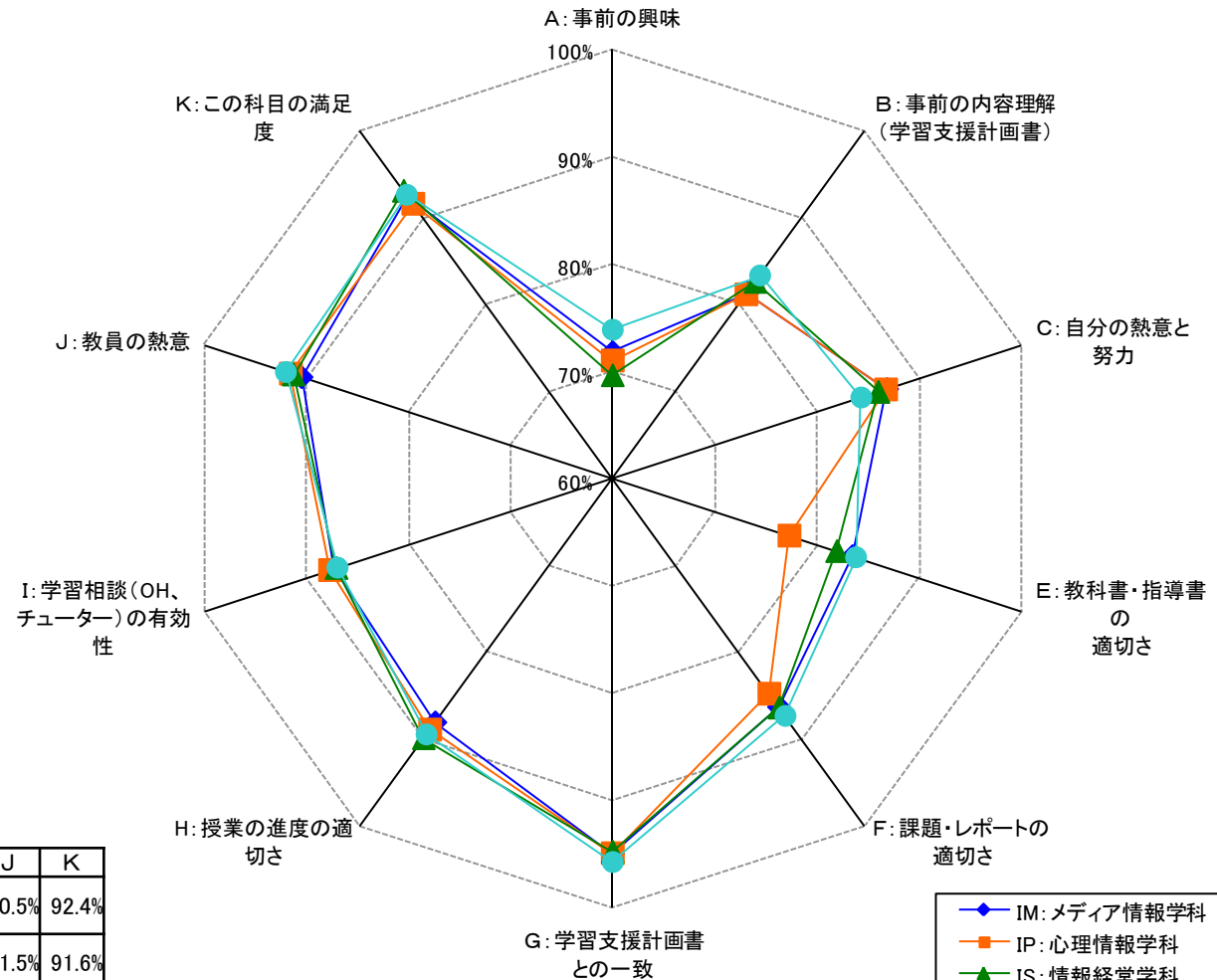


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE: 環境土木工学科	82.2%	82.4%	88.2%	83.9%	89.0%	96.4%	92.4%	88.8%	94.0%	95.5%
VA: 建築学科	79.8%	87.2%	88.6%	87.4%	89.9%	96.3%	91.9%	90.8%	94.5%	93.6%
VD: 建築都市デザイン学科	81.2%	86.6%	88.7%	88.8%	91.2%	96.3%	93.0%	91.2%	95.2%	93.4%

- 情報学部は学部別の比較では全体的に低かったが、それを学科別に比較すると、学科間の差はそれほど大きくなく、評価はままとまっていた。
- 学科間の差は少ないが、「IP:心理情報学科」で低い項目がいくつか見られた。特に「E:教科書・指導書の適切さ」の低さは目立っており、「F:課題・レポートの適切さ」も低めであった。
- 「IC:情報工学科」は「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」はやや高かったが、「C:自分の熱意と努力」は最も低かった。
- 「IM:メディア情報学科」と「IS:情報経営学科」には目立った特徴が見られず、全体的に中庸な結果となっていた。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート

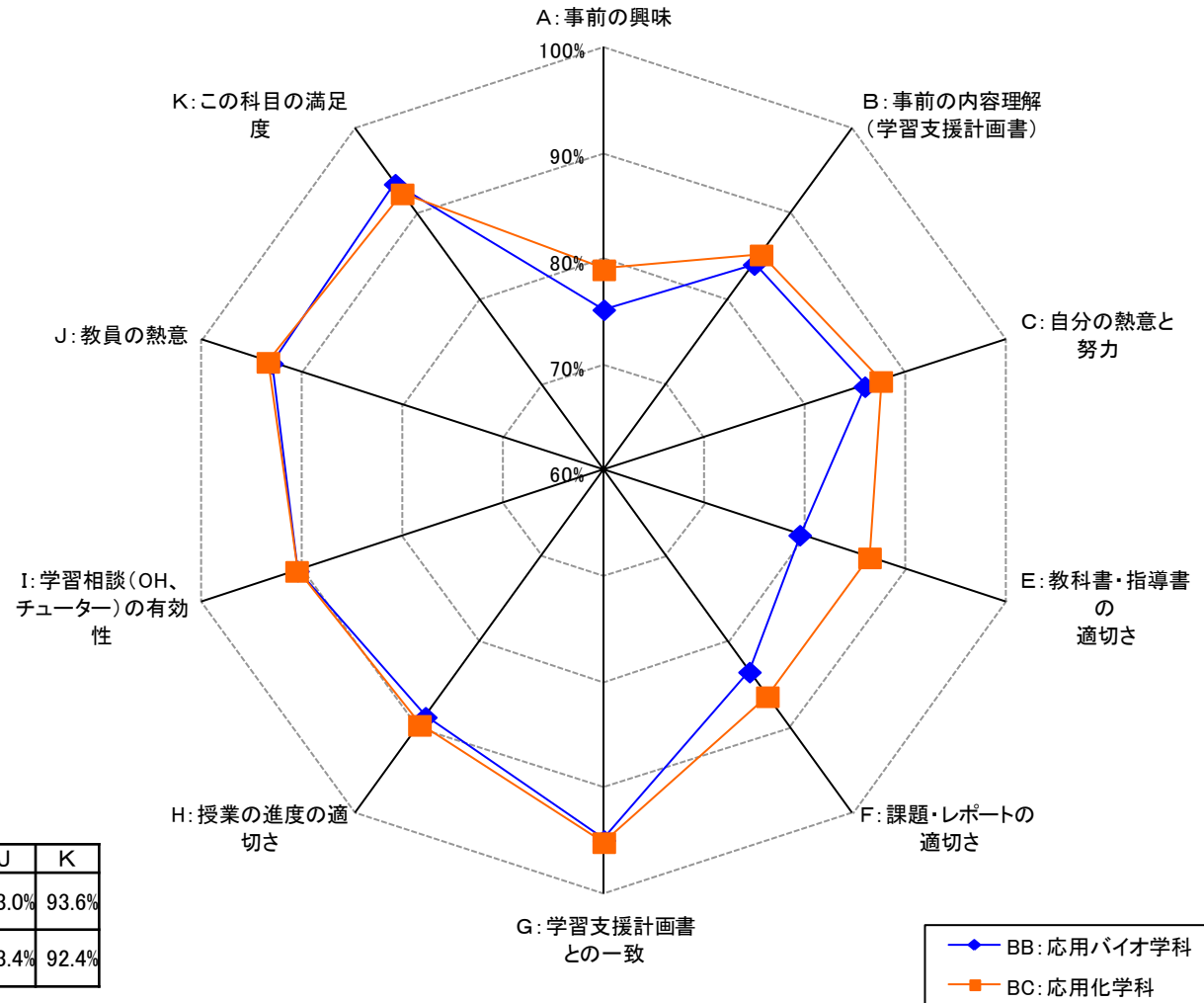


■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM:メディア情報学科	71.7%	81.3%	86.9%	83.5%	86.3%	94.9%	88.1%	87.2%	90.5%	92.4%
IP:心理情報学科	71.0%	81.2%	86.7%	77.3%	84.8%	94.9%	88.9%	87.7%	91.5%	91.6%
IS:情報経営学科	69.6%	82.6%	86.0%	82.0%	86.4%	94.8%	89.9%	87.0%	91.2%	93.1%
IC:情報工学科	73.8%	83.3%	84.3%	83.8%	87.3%	95.7%	89.5%	86.9%	92.0%	92.6%

- バイオ・化学部の2学科を比較すると、いくつかの項目で「BB:応用バイオ学科」の評価の低いものが見られた。
- 「BB:応用バイオ学科」は「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」の評価の低さが目立っており、「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」もやや低かった。
- 「K:この科目の満足度」は差は少ないものの「BB:応用バイオ学科」の方がわずかに高かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



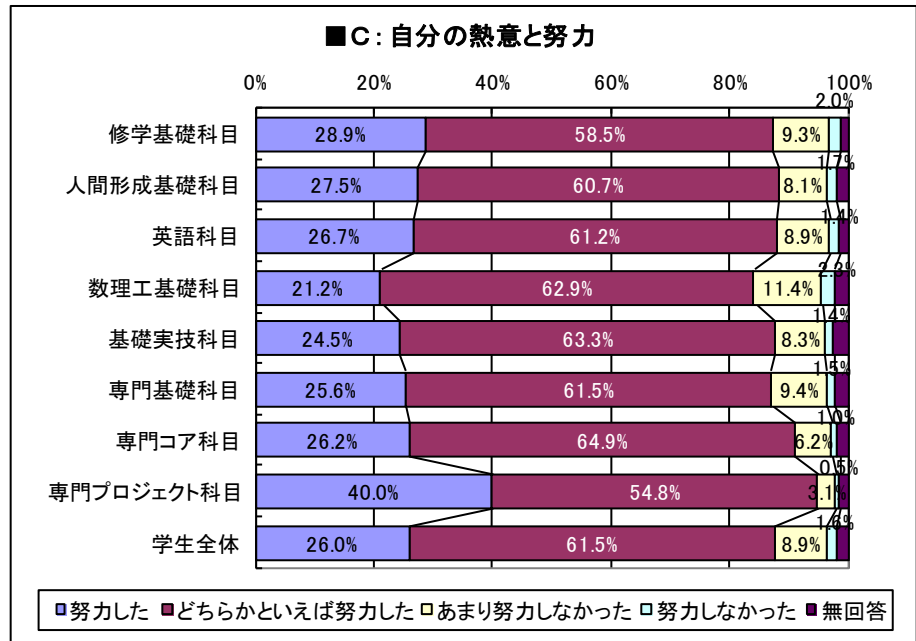
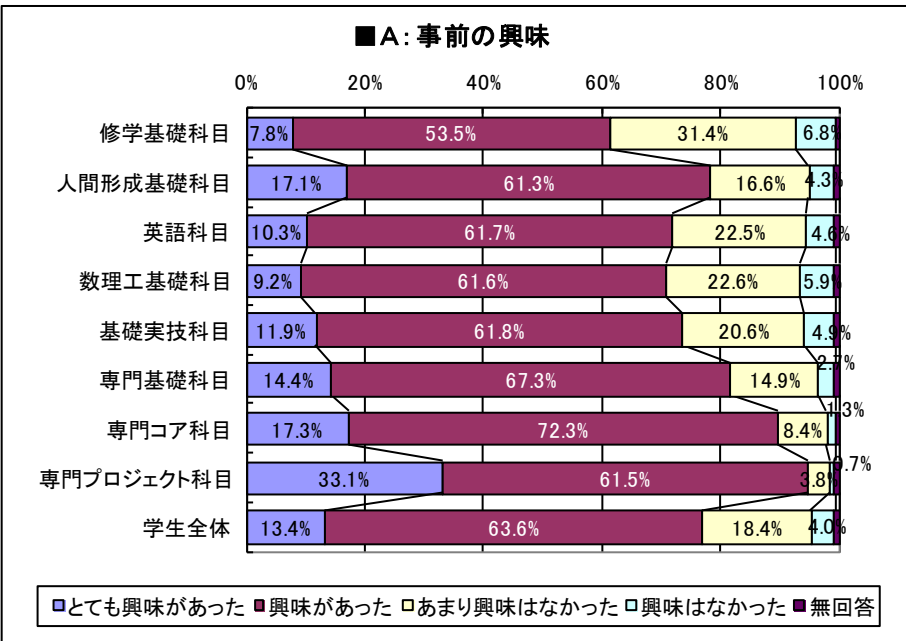
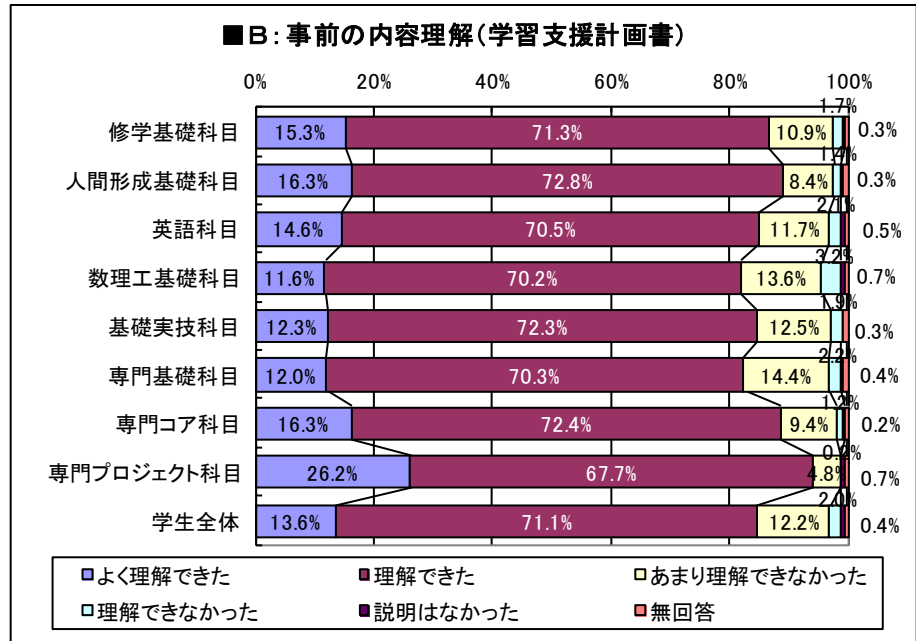
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	75.3%	84.2%	85.9%	79.5%	83.4%	94.9%	88.7%	90.4%	93.0%	93.6%
BC: 応用化学科	79.1%	85.3%	87.5%	86.4%	86.3%	95.1%	89.6%	90.5%	93.4%	92.4%

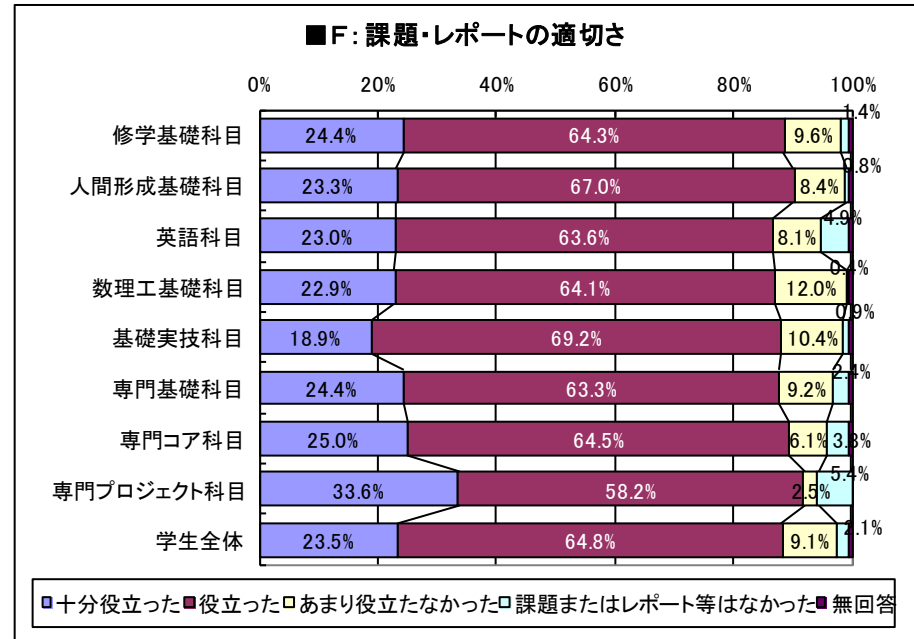
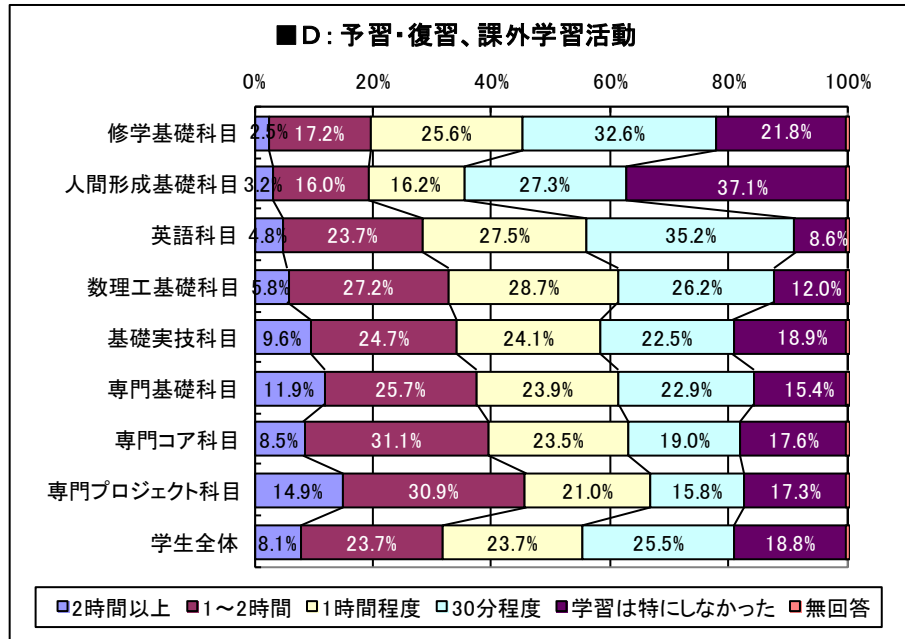
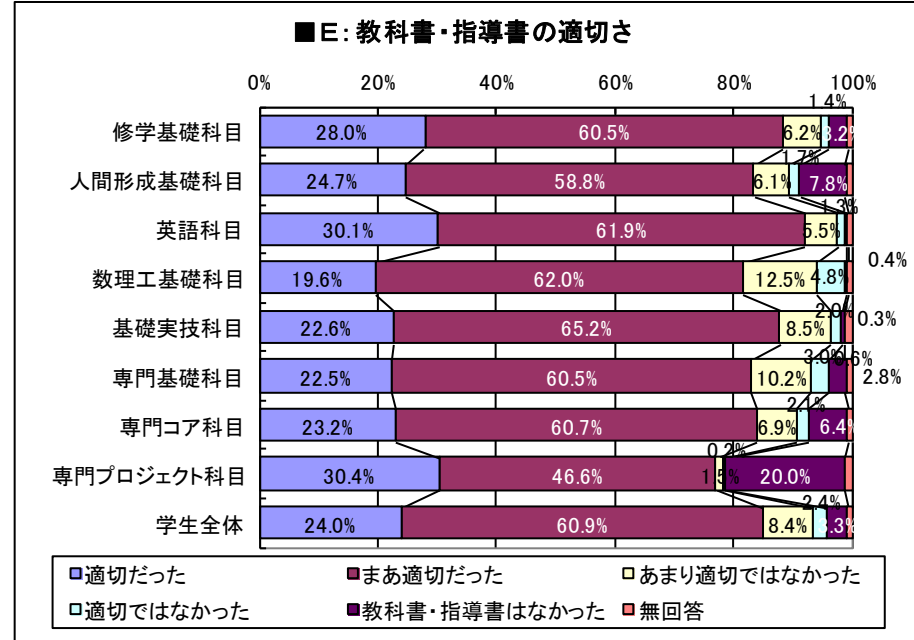
<5>科目区分別の分析

<5-1>科目区分別の比較

- 8つの科目区分毎に評価の比較を行った。
- 「A:事前の興味」では「専門プロジェクト科目」の高さが目立っており、「とても興味があった」が33.1%であり、「興味があった」と合わせると94.6%となった。次いで「専門コア科目」「専門基礎科目」「人間形成基礎科目」と続いており、専門系の科目に対する興味の強さが感じられる結果となった。一方、最も興味を持たれていなかったのは「修学基礎科目」であり、興味があるという回答は61.3%であった。
- 「B:事前の内容理解」については科目区分による差があまり見られなかったが、「専門プロジェクト科目」で理解できたという回答が93.9%と多く、「人間形成基礎科目」「専門コア科目」でもやや多めであった。
- 「C:自分の熱意と努力」に関しても科目区分による差はあまり大きくなかったが、「専門プロジェクト科目」では「努力した」という回答が40.0%と非常に多く、熱意を持って努力している様子がうかがえた。一方、「数理工基礎科目」では肯定的な意見がやや少なかった。

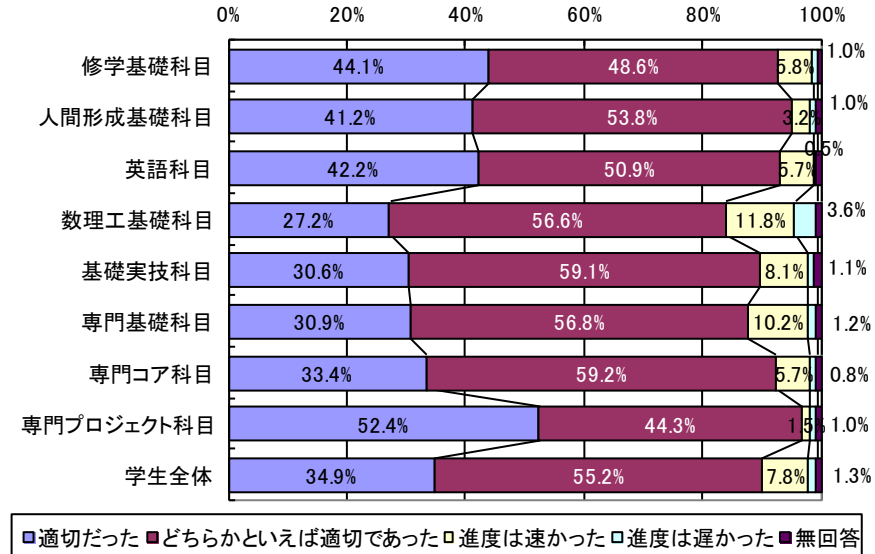


- 「D:予習・復習、課外学習活動」は科目区分による差が大きかったが、「2時間以上」と「1～2時間程度」を合わせた割合で見ると「専門プロジェクト科目」の学習時間が最も長いことが分かった。次いで、「専門コア科目」「専門基礎科目」など、専門系の科目が続いていた。一方、最も少なかったのは「人間形成基礎科目」で、「学習は特にしなかった」が37.1%と突出していた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では他の項目とは異なる特徴が見られた。目立っていたのは「専門プロジェクト科目」で、「教科書・指導書はなかった」という回答が20.0%あり、「人間形成基礎科目」で7.8%、「専門コア科目」で6.4%であった。評価が高かったのは「英語科目」「修学基礎科目」「基礎実技科目」で、教科書・指導書については基礎的な科目の評価が高くなっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が少なく大きな特徴は見られなかったが、「専門プロジェクト科目」で「十分役立った」が33.6%と突出していた。また、「人間形成基礎科目」でも肯定的な回答がやや多かった。

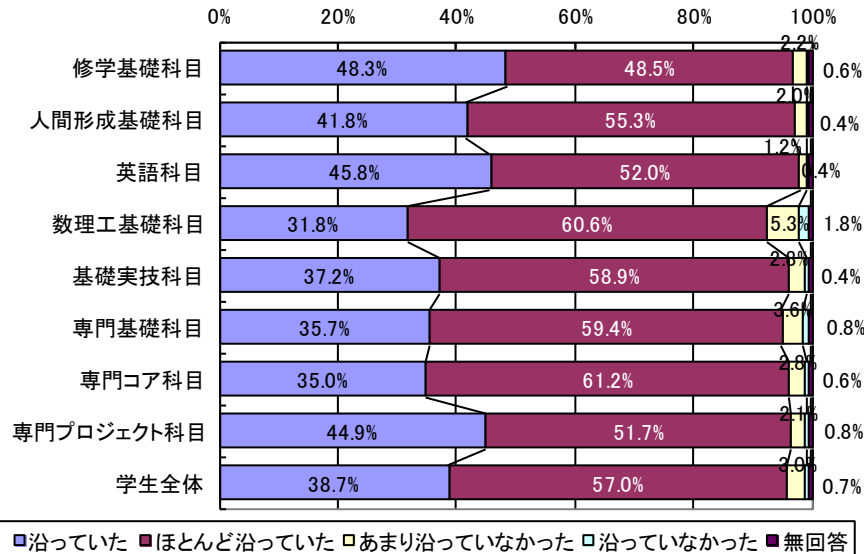


- 「G:学習支援計画書との一致」で「沿っていた」と「ほぼ沿っていた」の合計を見ると、いずれの科目区分でも9割以上が肯定的な意見であり、評価は高かった。「沿っていた」という回答だけで比較すると、「修学基礎科目」「英語科目」「専門プロジェクト科目」の評価が高く、「数理工基礎科目」が低かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多く、「適切だった」だけを見ても52.4%と、非常に評価が高かった。その他では「人間形成基礎科目」「修学基礎科目」「英語科目」でも肯定的な意見がやや多かった。一方、「数理工基礎科目」では評価が低く、特に「進度は速かった」という回答が11.8%と多かった。
- 「I:学習相談の有効性」では「専門プロジェクト科目」が特徴的であり、「相談しなかった」が36.7%と少なく、有効であったという回答が61.9%と多かった。また、「基礎実技科目」でも「相談しなかった」が52.9%とやや少なく、肯定的な意見が41.0%と多かった。

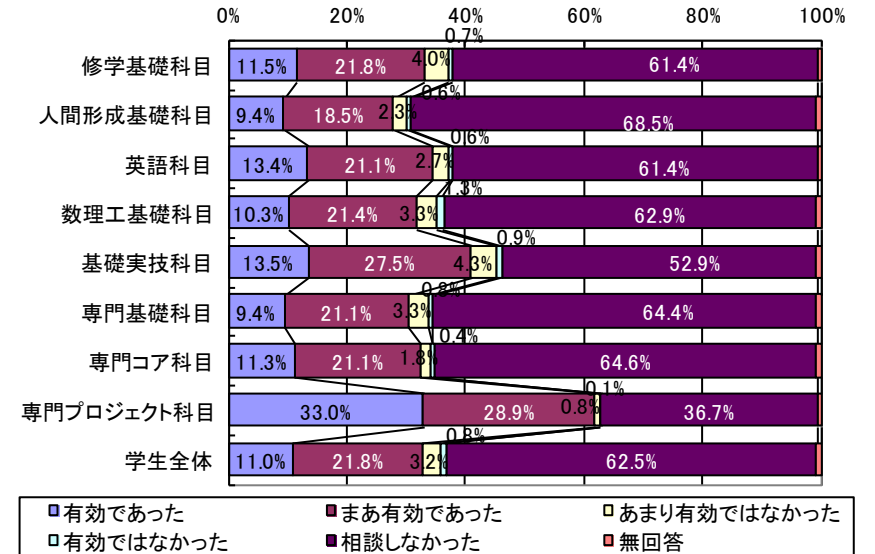
■H: 授業の進度の適切さ



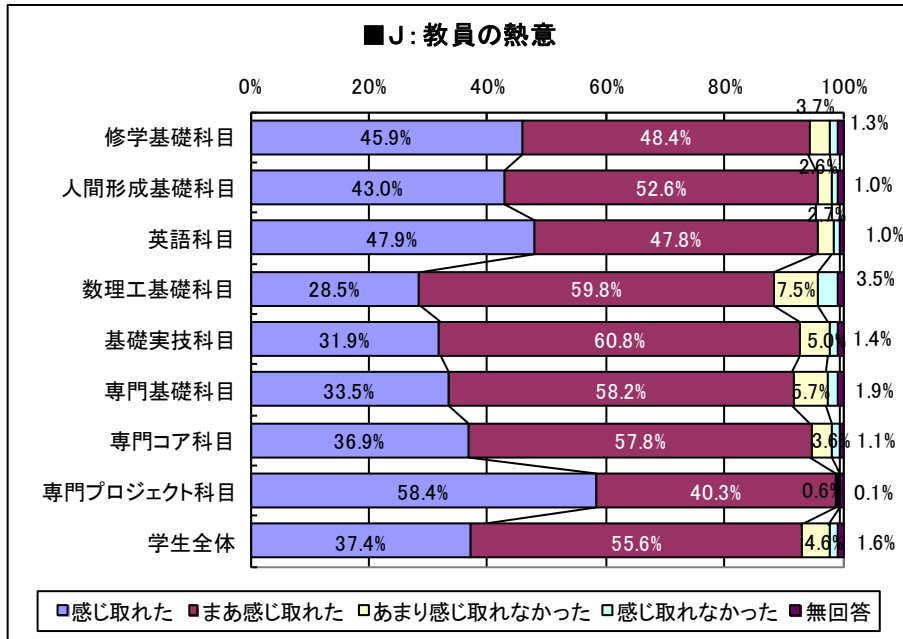
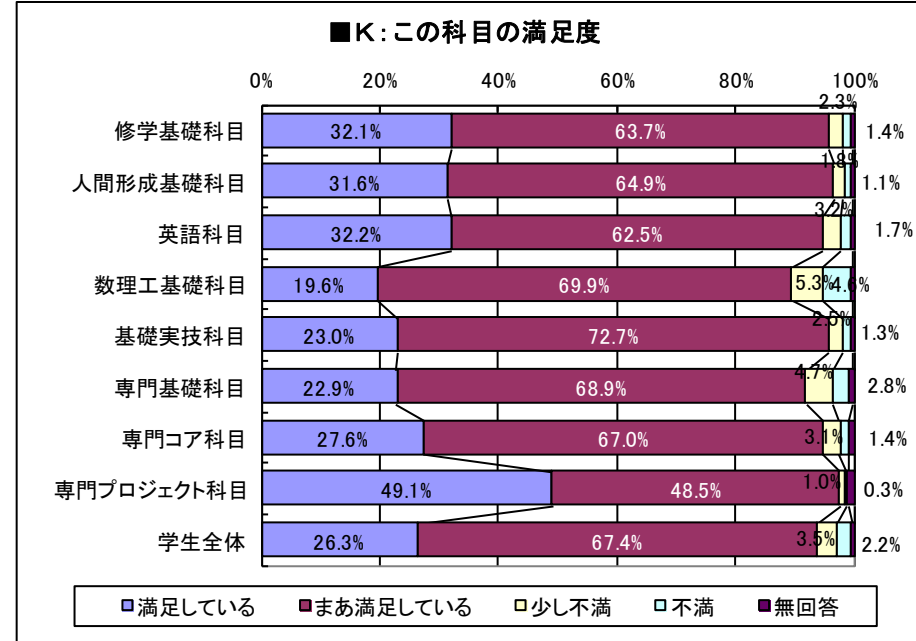
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



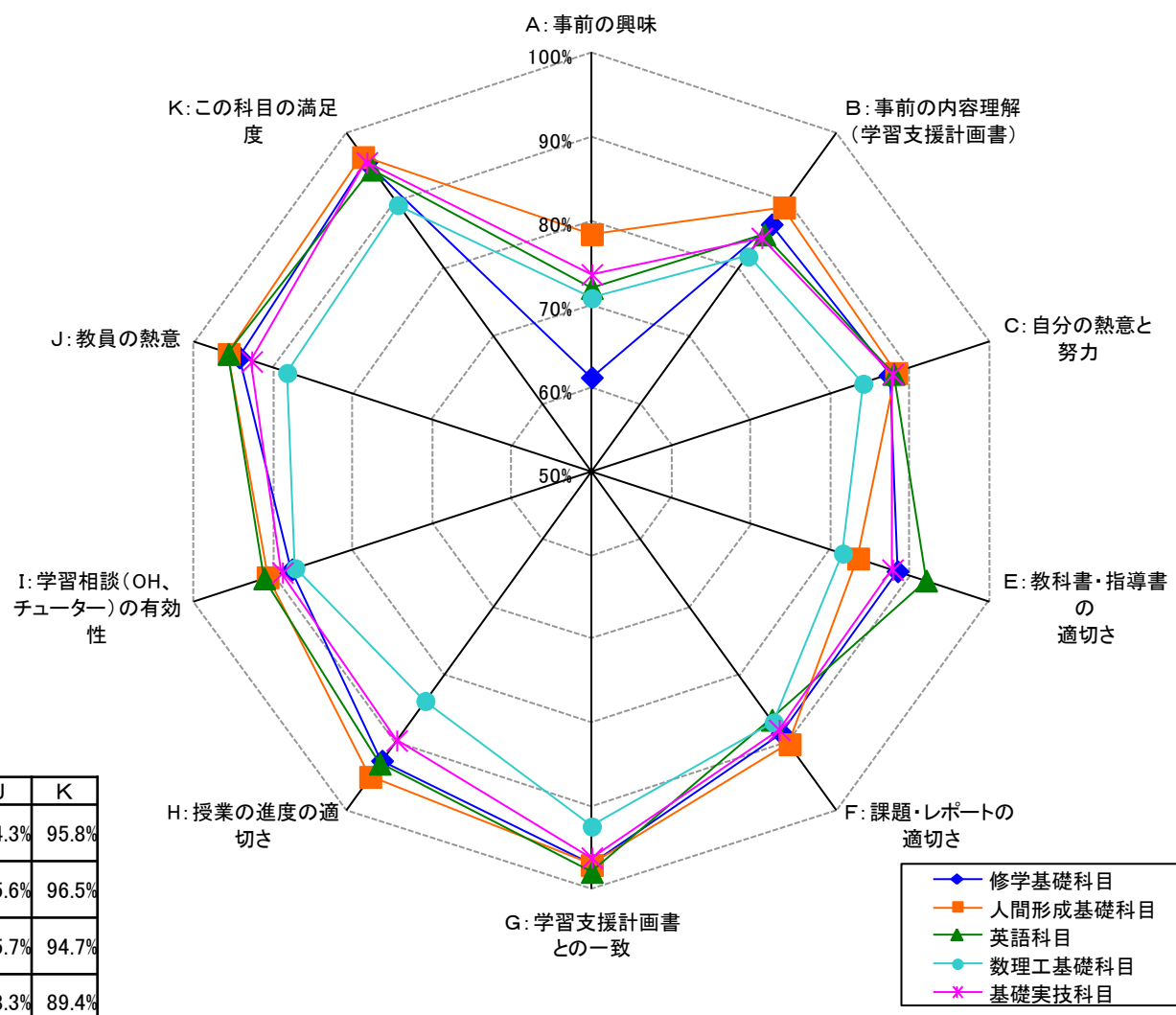
- 「J:教員の熱意」で「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」を合わせたもので比較したところ、1科目を除いて9割以上が肯定的な意見であり、評価は非常に高かった。特に「専門プロジェクト科目」は肯定的な意見が98.7%とほぼ全数を占めており、「感じ取れた」は58.4%と突出していた。また、「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」で肯定的な意見が多かった。一方、「数理工基礎科目」は最も少なかった。
- 「K:この科目の満足度」も肯定的な意見の合計はいずれの科目区分でもほぼ9割を超えており、満足度は高いと言える。特に「専門プロジェクト科目」では「満足している」が49.1%とほぼ半数を占めており、満足度は非常に高かった。そして、「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」でも「満足している」という回答が多かったが、「数理工基礎科目」「専門基礎科目」はやや低めであった。



<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- すべての科目区分を比べると数が多いため、一般系の5科目と専門系の3科目に分けて学科同士の比較を行った。
- 一般系の5科目の肯定的な意見をプロットすると右のレーダーチャートのようなになるが、全体的に「人間形成基礎科目」「英語科目」で肯定的な意見が多かった。
- 「人間形成基礎科目」は特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」が高く、「英語科目」は「E:教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。
- 一方、全体的に評価が低かったのは「数理工基礎科目」であり、「A:事前の興味」「F:課題・レポートの適切さ」を除く全ての項目で最も評価が低かった。「A:事前の興味」は「修学基礎科目」の低さが非常に目立っていた。

■ 科目区分別比較レーダーチャート①(一般系科目)

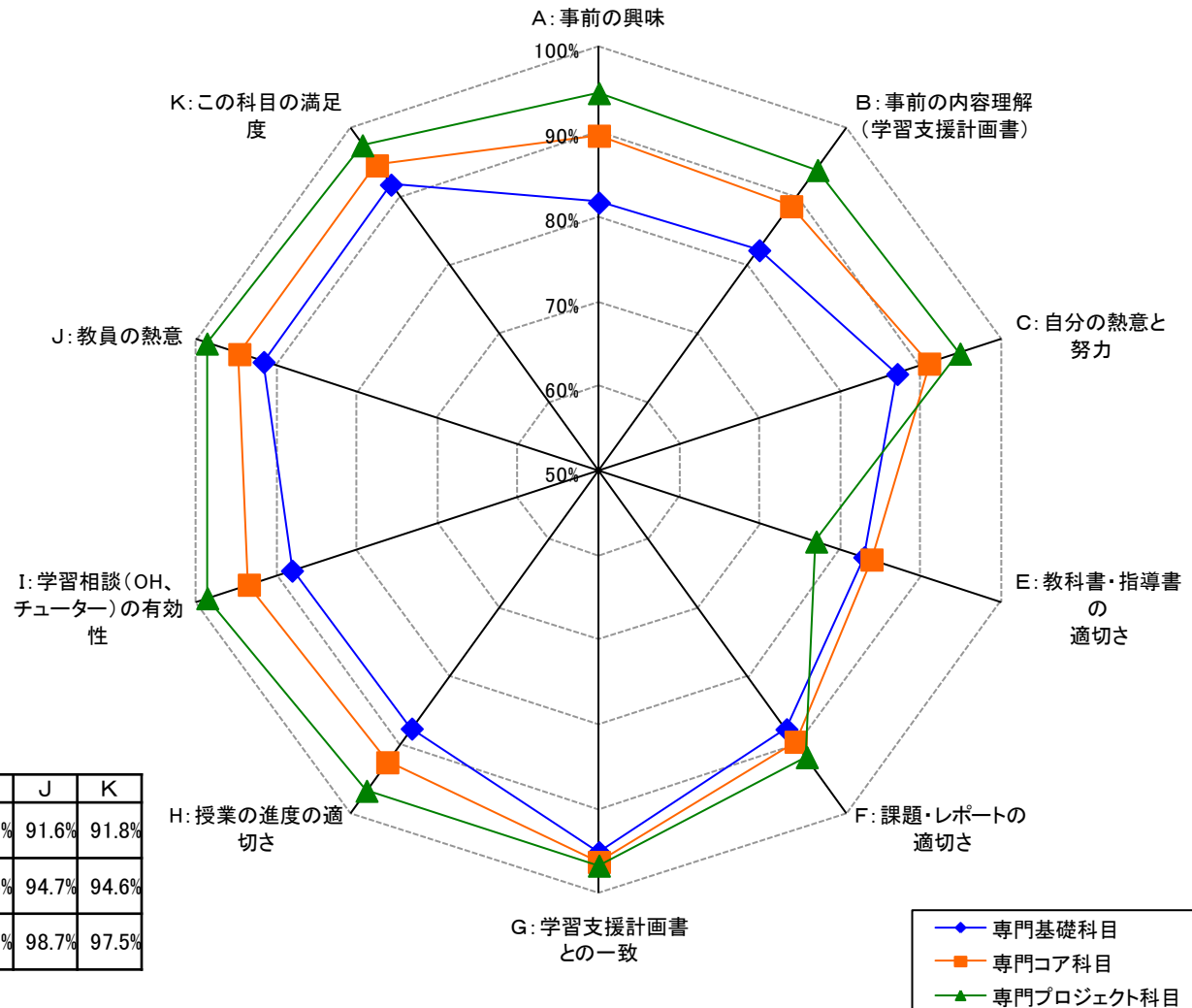


■ 一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	61.3%	86.6%	87.4%	88.4%	88.6%	96.9%	92.7%	87.7%	94.3%	95.8%
人間形成基礎科目	78.4%	89.1%	88.3%	83.5%	90.2%	97.0%	95.1%	90.8%	95.6%	96.5%
英語科目	72.0%	85.1%	87.9%	92.0%	86.6%	97.8%	93.1%	91.2%	95.7%	94.7%
数理工基礎科目	70.8%	81.8%	84.1%	81.6%	87.0%	92.4%	83.9%	87.3%	88.3%	89.4%
基礎実技科目	73.6%	84.6%	87.8%	87.8%	88.1%	96.1%	89.7%	88.9%	92.8%	95.8%

- 「専門系」の3つの科目区分では、特徴がハッキリと出ていた。
- 「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多かったが、「E:教科書・指導書の適切さ」だけは最も低い評価であった。これは「教科書・指導書はなかった」という意見が多かったためであり、その点を考慮すると、授業は全体的に高い評価を受けていると言える。
- 「専門基礎科目」はほとんどの科目で最も低い評価であった。特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」という、授業の前段階の項目の評価の低さが目立っていた。
- 「専門コア科目」はほとんどの項目で中間的な評価であり、特徴は見られなかったが、「E:教科書・指導書の適切さ」の評価は高かった。

■科目区分別比較レーダーチャート②(専門系科目)



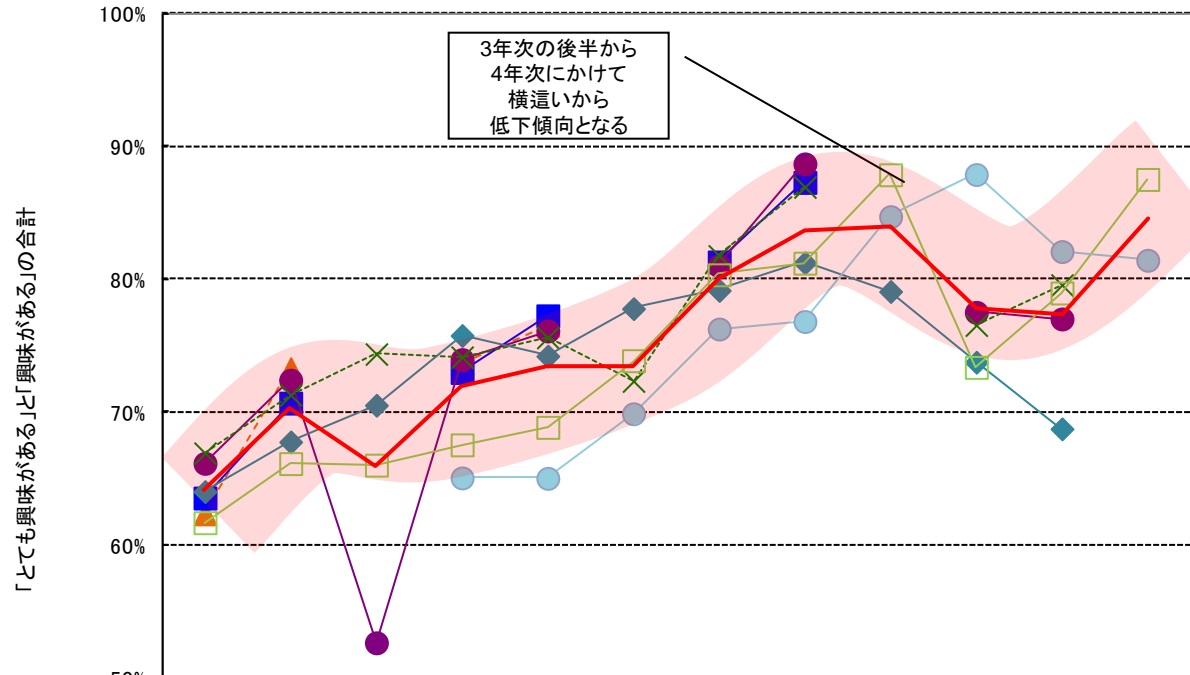
■専門系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
専門基礎科目	81.7%	82.2%	87.1%	83.0%	87.7%	95.0%	87.6%	88.1%	91.6%	91.8%
専門コア科目	89.6%	88.7%	91.0%	83.9%	89.5%	96.2%	92.5%	93.5%	94.7%	94.6%
専門プロジェクト科目	94.6%	93.9%	94.9%	77.0%	91.8%	96.6%	96.7%	98.7%	98.7%	97.5%

<6> 同一学生群の分析

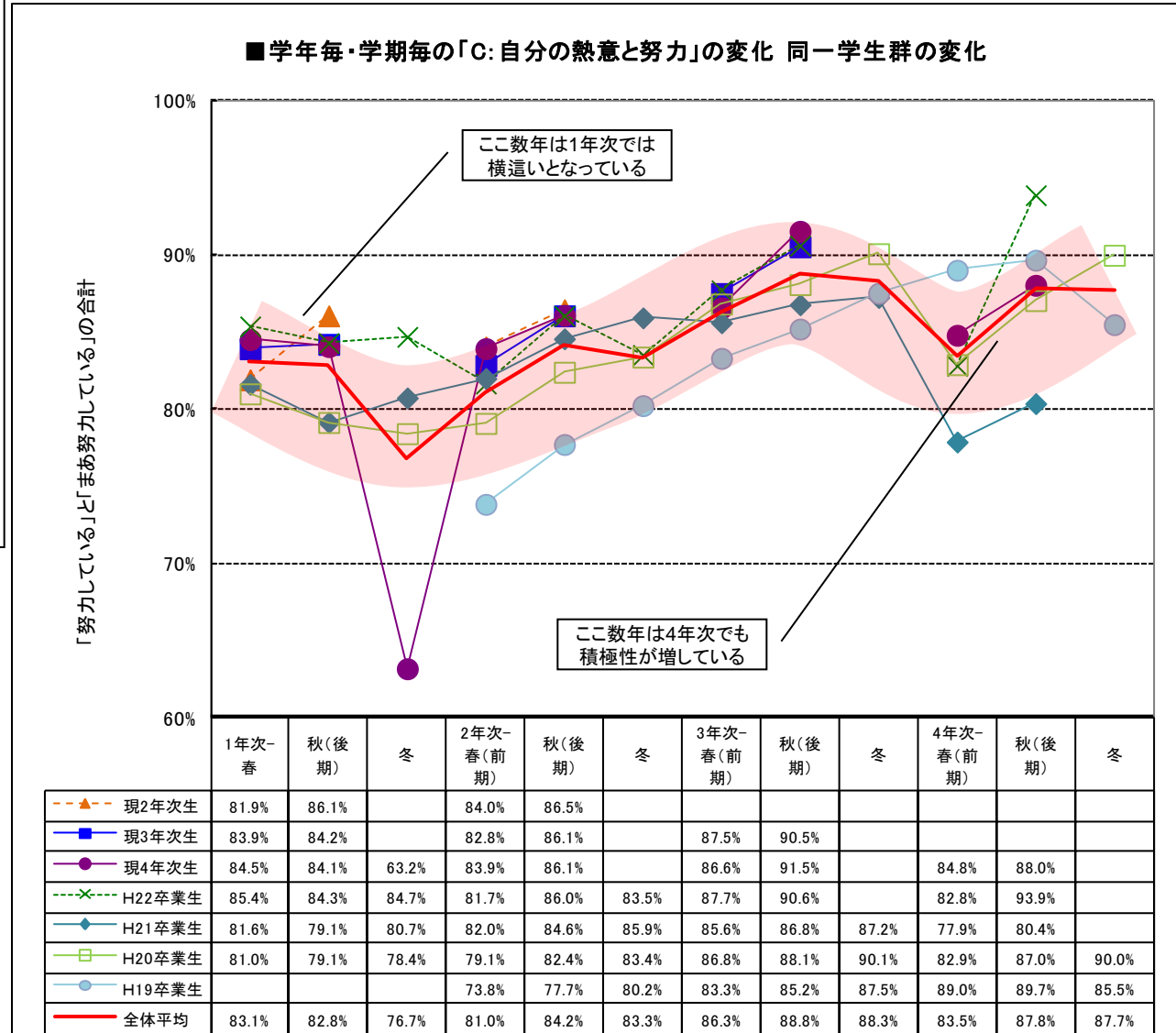
- この調査はH15年から実施しているが、その中で同一学生群として経年変化を追跡できる学生群をピックアップし、意識の変化を確認した。
- 3学期制と2学期制の学生が混在しているが、2学期制の「後期」は3学期制の「秋学期」と一緒にプロットしている。
- 「A:事前の興味」に関しては、ほとんどの学生群で「1年次」から「3年次」の後期(秋)にかけて興味が増し、「4年次」にかけて低下し、その後に横這いとなる傾向が見られた。
- 「現3年次生」「現4年次生」は「前期」「後期」で同じような変化をしており、いずれも「3年次」の「後期」で非常に強い興味を持つという、今までにない傾向となっていた。
- 「4年次」の段階での興味の低下が課題のように思われるが、「4年次生」で授業アンケートに回答している数は少なく、一般的には卒業研究に取り組んでいるはずであり、緊急性の高い課題と考える必要はないと思われる。

■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化

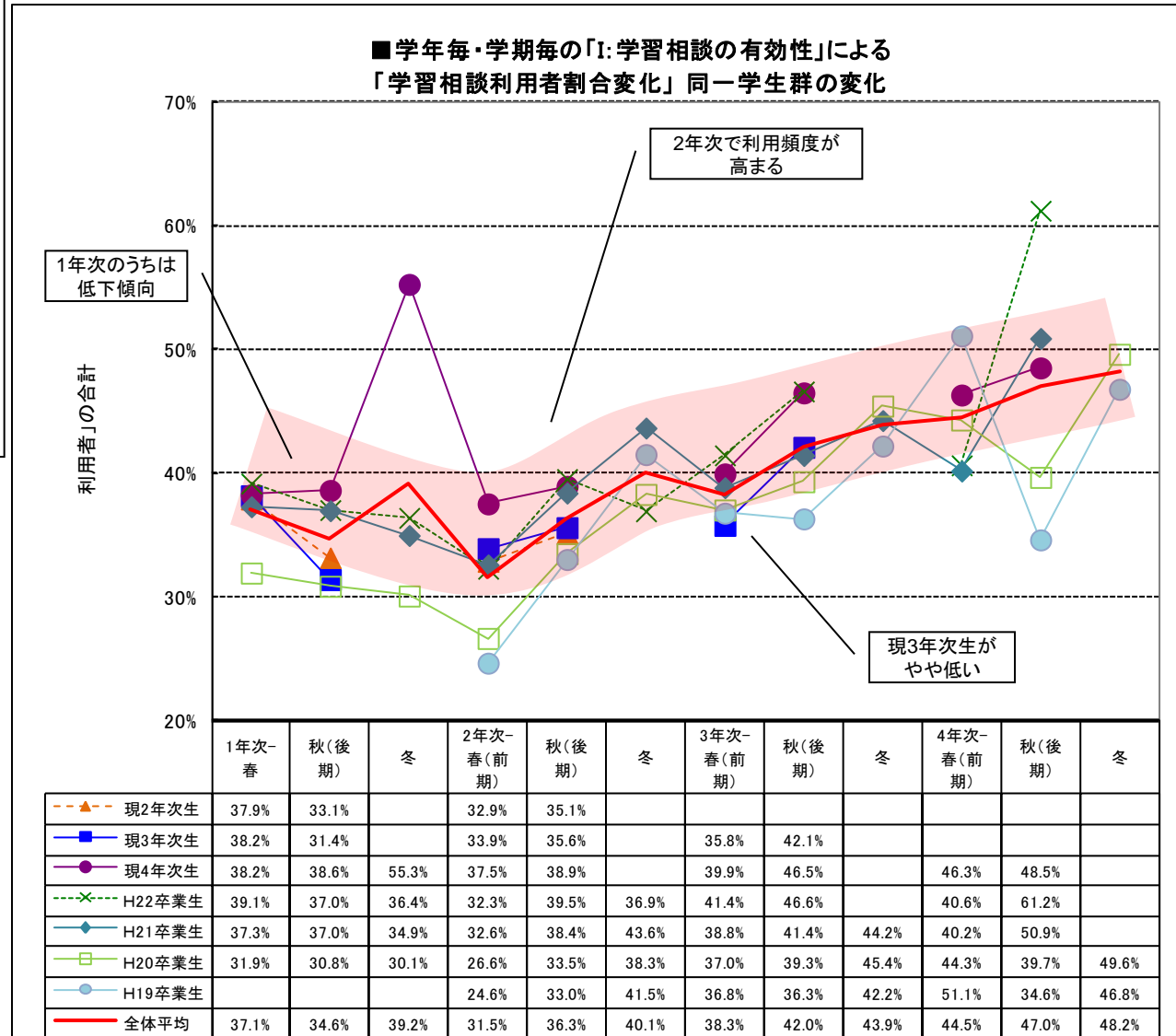


	1年次-春(前期)	秋(後期)	冬	2年次-春(前期)	秋(後期)	冬	3年次-春(前期)	秋(後期)	冬	4年次-春(前期)	秋(後期)	冬
---▲--- 現2年次生	62.3%	73.3%		73.7%	76.6%							
---■--- 現3年次生	63.5%	70.7%		73.0%	77.3%		81.3%	87.3%				
---●--- 現4年次生	66.2%	72.4%	52.6%	74.0%	76.1%		81.0%	88.7%		77.5%	77.0%	
---×--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.4%	74.2%	75.6%	72.4%	81.8%	87.0%		76.6%	79.6%	
---◆--- H21卒業生	64.0%	67.8%	70.5%	75.8%	74.2%	77.8%	79.2%	81.3%	79.1%	73.8%	68.8%	
---□--- H20卒業生	61.7%	66.1%	66.0%	67.5%	68.9%	73.9%	80.4%	81.2%	87.9%	73.4%	79.0%	87.5%
---●--- H19卒業生				65.1%	65.0%	69.9%	76.3%	76.8%	84.7%	87.9%	82.1%	81.5%
---●--- 全体平均	64.1%	70.3%	65.9%	71.9%	73.4%	73.5%	80.0%	83.7%	83.9%	77.8%	77.3%	84.5%

- 「C:自分の熱意と努力」に関しては、全体の平均としては入学後から「2年次」にかけて「熱意と努力」がゆるやかに低下し、「2年次」から「3年次」にかけてはゆるやかに上昇する傾向が続いていたが、「現2年次生」「現3年次生」「現4年次生」は「1年次」の「前期」から「後期」にかけて積極性が低下することなく、「2年次」「3年次」にかけてもわずかずつつではあるが積極性が増す傾向が続いていた。
- 前項で見たように「4年次生」は対象者が少ないため、それほど重視する必要はないと思われるが、「3年次」から「4年次」にかけては積極性が低下し、「4年次」の「前期」から「後期」にかけては積極性が増加する傾向が続いていた。
- 学生群の特徴としては「現3年次生」と「現4年次生」はいずれも積極性が高いようである。この学生群では、「3年次」の「後期」の積極性がこれまでで最も高くなっていた。

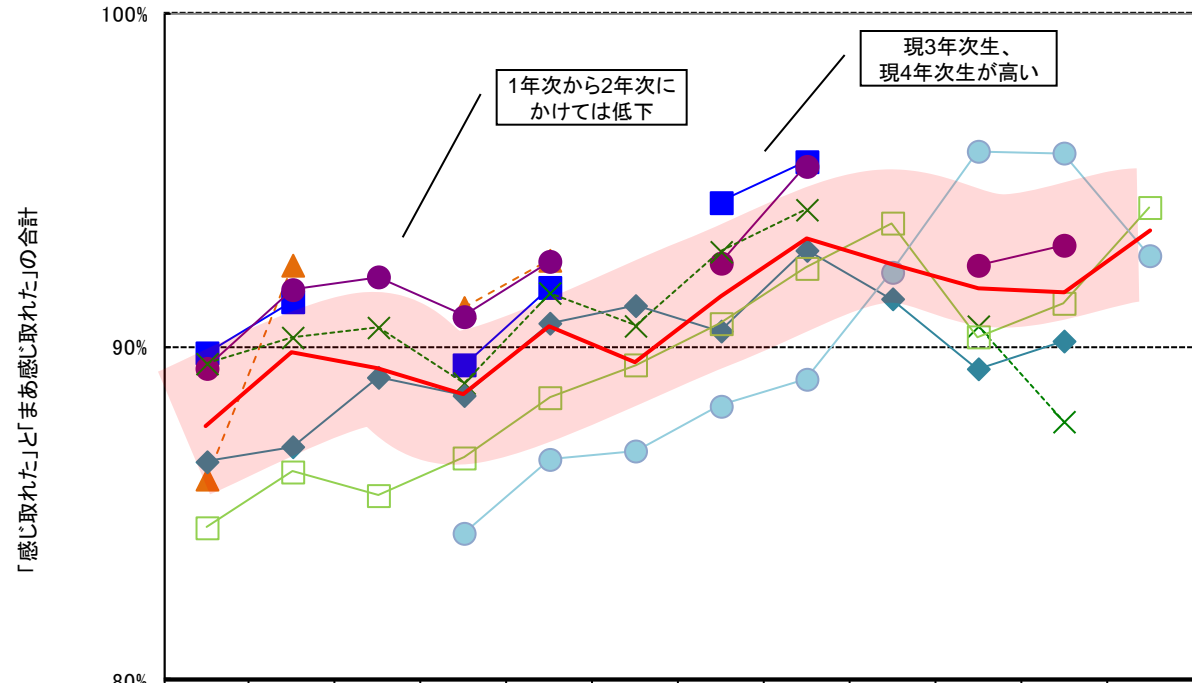


- 「I:学習相談の有効性」に関しては、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 以前は利用者の割合は入学後から「2年次」にかけて減少する傾向が続いていたが、ここ数年は横這い状態が続いており、「2年次」でも利用する学生が増加しているようであった。
- 「2年次」から「4年次」にかけての利用者の増加に関しては大きな変化がなく、「学習相談」が定着していると言える。ただし、利用者の割合は最大でも5割未満である点は注意して見る必要がある。
- 学生群の特徴を見ると、「現3年次生」は「3年次」の段階で利用率がやや低く、「現4年次生」は4年間を通じて高い利用率であった。



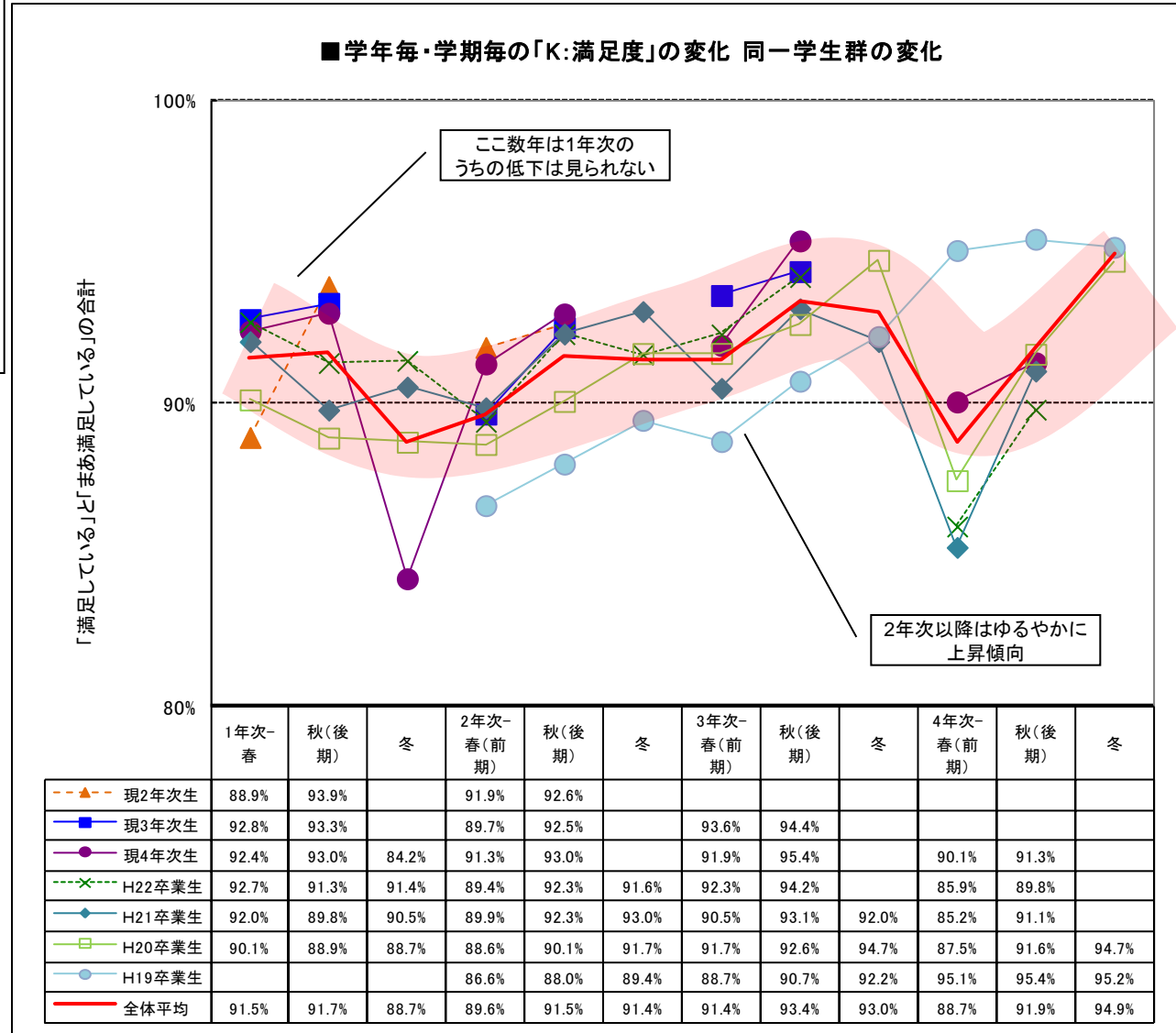
- 「J:教員の熱意」は「1年次」の後半から「2年次」の前半で低下する傾向が続いているが、全体的に緩やかに肯定的な意見が増加しており、学年が上がるほど教員の熱意を感じるようになるようであった。
- 学生群の特徴を見ると、「現3年次生」「現4年次生」は常に肯定的な意見が多く、特に「3年次」ではこれまでにない高さであり、ここ数年の学生は教員の熱意を強く感じているようであった。
- 全体の傾向を見ると、肯定的な意見は常に9割前後であり、教員の熱意はしっかり伝わっているものと思われる。「4年次」での低下もあるが、これもわずかであり、大きな問題とは思えないものであった。

■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-春	秋(後期)	冬	2年次-春(前期)	秋(後期)	冬	3年次-春(前期)	秋(後期)	冬	4年次-春(前期)	秋(後期)	冬
---▲--- 現2年次生	86.0%	92.5%		91.2%	92.6%							
---■--- 現3年次生	89.8%	91.4%		89.5%	91.8%		94.3%	95.6%				
---●--- 現4年次生	89.4%	91.7%	92.1%	90.9%	92.6%		92.5%	95.4%		92.5%	93.1%	
---×--- H22卒業生	89.5%	90.3%	90.6%	88.9%	91.6%	90.6%	92.9%	94.1%		90.6%	87.8%	
---◆--- H21卒業生	86.6%	87.0%	89.1%	88.5%	90.7%	91.2%	90.5%	92.9%	91.4%	89.3%	90.2%	
---□--- H20卒業生	84.6%	86.2%	85.5%	86.7%	88.5%	89.5%	90.7%	92.4%	93.7%	90.3%	91.3%	94.2%
---●--- H19卒業生				84.4%	86.6%	86.9%	88.2%	89.0%	92.2%	95.9%	95.8%	92.7%
---■--- 全体平均	87.6%	89.8%	89.3%	88.6%	90.6%	89.6%	91.5%	93.2%	92.5%	91.7%	91.6%	93.5%

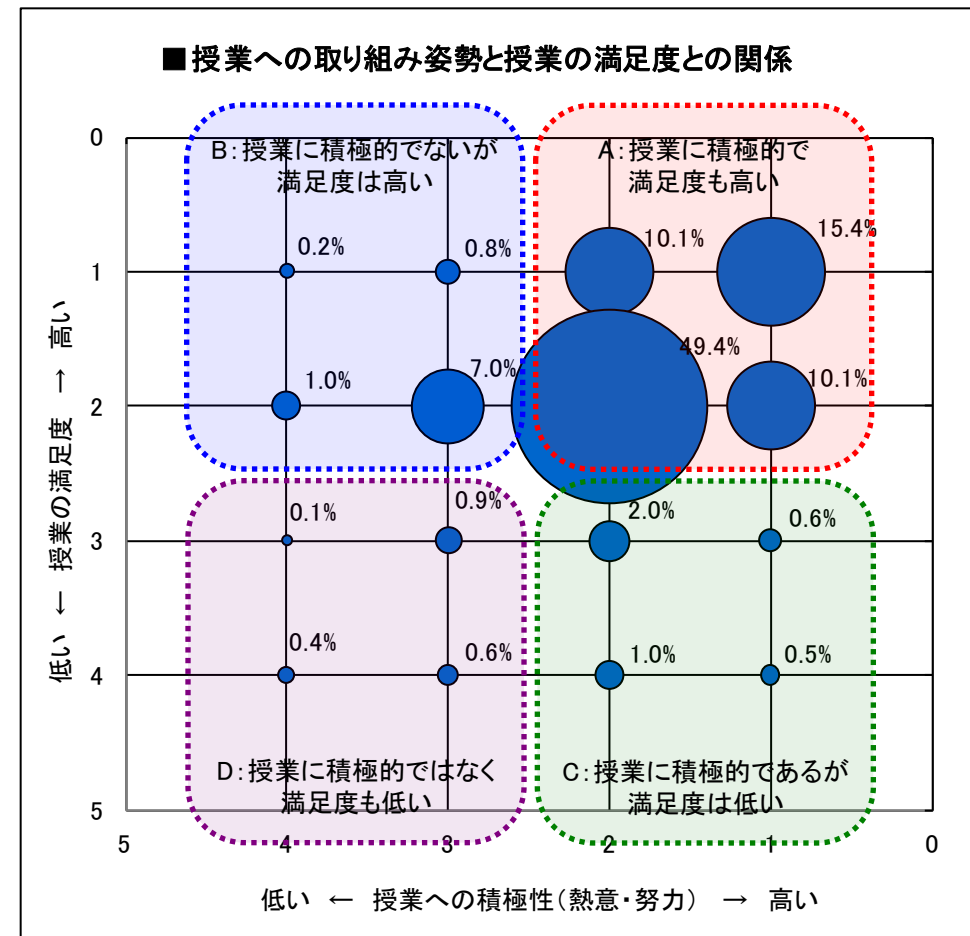
- 「K:この科目の満足度」もこれまでは「1年次」の「前期」から「後期」にかけて低下する傾向が見られたが、ここ数年は低下せず、ほぼ横這いの状態であった。ただし、「2年次」にかけての低下は続いており、この低下が今後の課題になると思われる。
- 「2年次」以降は緩やかではあるが満足度の向上が続いており、いずれの学生群でも9割以上が満足と答えており、満足度は高いと言える。
- 学生群による特徴を見ると、「現3年次生」と「現4年次生」の満足度は継続的に高い状態を保っており、特に「3年次」の「後期」の満足度はこれまでにない高さであり、約95%が満足と答えていた。



<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

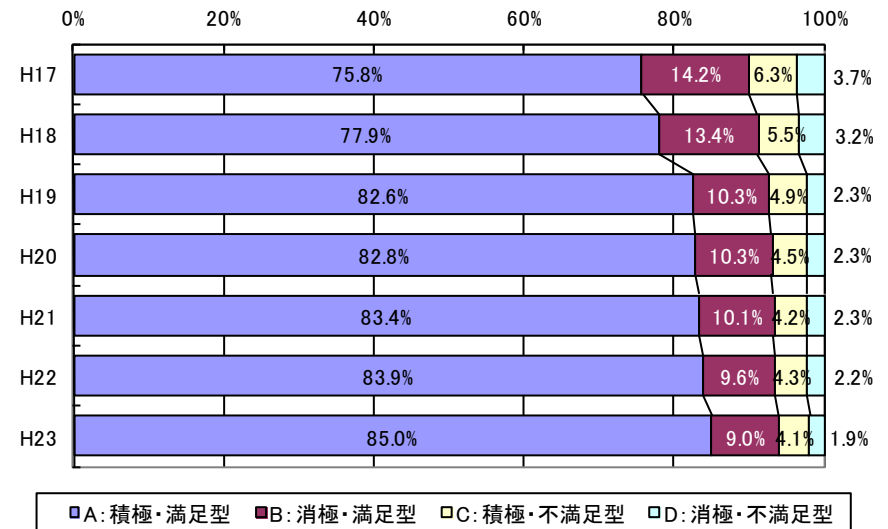
- 「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」という学生は全体の85.0%を占めており、これらの学生群は良い状態で授業に取り組んでいると言える。ただしこの中で「満足度」も「積極性」も共に最も高かった学生は15.4%で、共に「まあまあ」という学生が49.4%であり、全体の半数を占めていた。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」という学生は9.0%であった。これは授業に対して積極性を持っていないが満足はしているという学生群と言える。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は全体の4.1%であった。これは授業に対して積極的に取り組んだものの満足感を得られていないという学生群であり、「期待はずれ」「物足りない」「授業が分からない」といった状況が考えられ、積極的なフォローが必要と言える。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は全体の1.9%と非常に少なかったが、最も大きな課題を抱えている学生群であると言える。



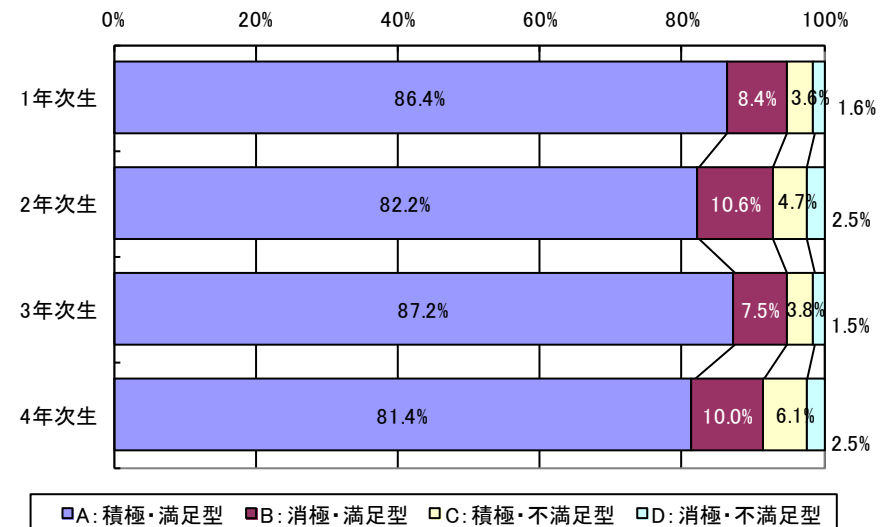
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	85.0%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	9.0%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	4.1%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.9%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの割合の経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は前回より1.1ポイント増加して、これまでで最も多くなっていた。この指標を見始めたH17と比べると9.2ポイント増加しており、良い状態の学生が継続的に増加していると言える。
- その他のグループを見ると、「C:積極・不満足型」と「D:消極・不満足型」は以前と比較してほとんど変化はなく、「B:消極・満足型」は0.6ポイントの減少していた。
- 今回の結果を学年別に比較すると、「A:積極・満足型」は「1年次生」で86.4%、「3年次生」で87.2%であり、この2学年で多かった。そして、「2年次生」で82.2%、「4年次生」で81.4%とやや少なかった。
- 「4年次生」は「C:積極・不満足型」が6.1%とやや多い点が特徴的であった。

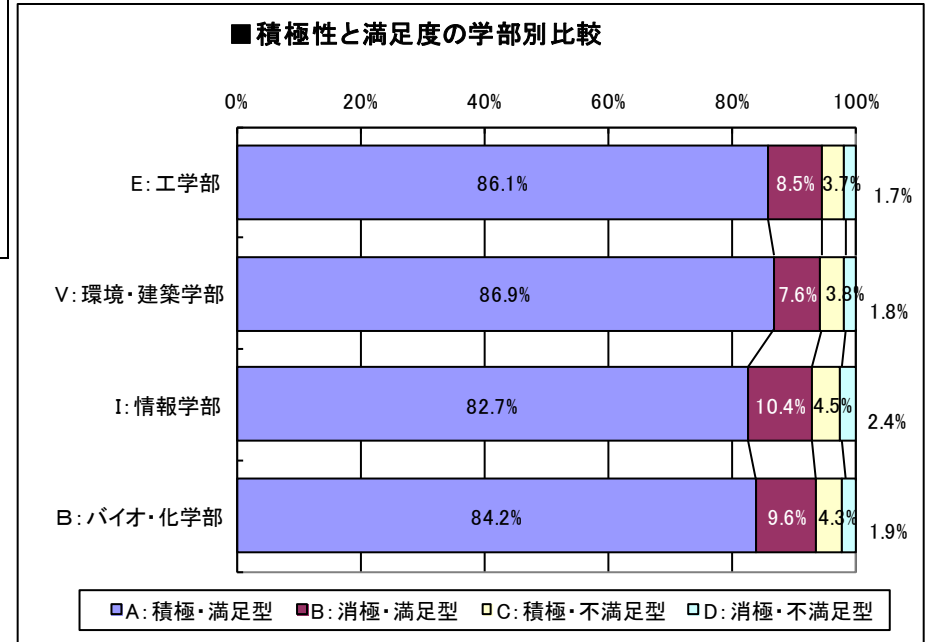
■ 積極性と満足度の経年変化



■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部毎に比較したところ、差はそれほど大きくなかったが、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」で86.9%と最も多く、次いで「E:工学部」で86.1%、「B:バイオ・化学部」で84.2%、「I:情報学部」で82.7%と続いており、「V:環境・建築学部」と「I:情報学部」の差は4.2ポイントであった。
- その他の特徴を見ると、「I:情報学部」で「B:消極・満足型」がやや多い点が特徴的であった。



<8> 全体のまとめ

<8-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

93.5%が授業に満足と回答しており、評価は高いと言える。
そして、87.2%は熱意を持って授業を受けており、
教員の熱意を感じたという意見も92.9%と高かった。

- ◆ 全体の93.5%は授業に満足していると回答しており、満足度は非常に高かった。
- ◆ 事前に授業に興味を持っていたという回答は76.9%であり、84.6%は事前に内容を理解していたと回答していた。
- ◆ 授業の開始後としては、87.2%が熱意を持って努力したと回答しており、全体の55.4%は1回の授業に対して1時間以上の予習・復習時間をとっていると回答していた。
- ◆ 「授業を通して教員の熱意を感じ取れた」という回答は92.9%であった。

【経年変化で確認できた事】

「満足度」「積極性」など、すべての項目で前年を上回っており、
これまでで最も高い評価となっていた。
授業のサポートツール類の評価も上がっていた。

- ◆ すべての項目で前年より肯定的な意見が増加しており、授業の評価は上がっていた。
- ◆ 満足度は前年より1.7ポイント増加していた。いくつかの例外はあるが、満足度はH15より継続的に上がっており、これまでで最も高かった。
- ◆ 「事前の興味」「事前の内容理解」は以前より上がっており、「自分の熱意と努力」「予習・復習、課外学習活動」といった学生自身の取り組み姿勢も以前より積極的になっていた。
- ◆ 上記の他に「教科書・指導書」「課題・レポート」「学習支援計画書との一致」など、授業のサポートツール類の評価も上がっていた。

【学年別比較で確認できた事】

全体的に「1年次生」と「3年次生」で肯定的な意見が多かったが、
「1年次生」は「事前の興味の低さ」が目立っていた。
また、「2年次生」は積極性が弱いのではないかと思われた。

- ◆ 全体的に「1年次生」と「3年次生」で肯定的な意見が多く、良い状態で授業を受けているようであった。
- ◆ 「1年次生」は授業は充実しているものの「事前の興味」が最も低かった。また、「予習・復習、課外学習活動」の時間が最も少なかった。
- ◆ 「3年次生」は充実しているが特に「A: 事前の興味」の高さが目立っており、この興味の高さが全体の充実に通じているのではないかと思われる。
- ◆ 「2年次生」は全体的に低めであったが、特に「C: 自分の熱意と努力」「J: 教員の熱意」などが低く、積極性が感じられない様子がうかがえた。

【同一学生群で確認できた事】

これまでの同一学生群で見られた「1年次の後半」「2年次」の
中だるみが見られないようになってきている。そして、「現3年次生」と
「現4年次生」はこれまでにないほど良い状態であった。

- ◆ 3学期制の頃には、「1年次」の「冬学期」に積極性や満足度が低下する傾向が見られたが、前後期制となつてからは「1年次」の後半での各指標の低下が少なくなっているようであった。
- ◆ 「現3年次生」と「現4年次生」はこれまでの学生群の中で見ると非常に良い状態であり、「満足度」「積極性」「事前の興味」についてはこれまでで最も高いスコアとなっていた。
- ◆ ここ数年の学生は、「1年次の後半」「2年次」での中だるみが少なくなつてきているようであり、この点はしっかりと見ていく必要があると思われる。

【学部別比較で確認できた事】

「環境・建築学部」は全体的に良い状態にあった。
一方、「情報学部」は全体的に低く、
特に「事前の興味」の低さが目立っていた。

- ◆ 学部による差はそれほど大きくなかったが、全体的に「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、「I:情報学部」で少なかった。
- ◆ 「K:この科目の満足度」は学部による差がほとんど見られなかったが、「A:事前の興味」は学部による差がやや大きく、「V:環境・建築学部」がやや高く、「I:情報学部」の低さが目立っていた。
- ◆ 「E:工学部」は全体的に中庸な評価であり、目立った特徴は見られなかった。また、「B:バイオ・化学部」も目立った特徴は見られなかったが、「F:課題・レポートの適切さ」は最も低かった。

【学科別比較で確認できた事】

同一学部の中では学科間の差はそれほど小さくなく、
同じような傾向であり、「授業の満足度」に関しても
学科による差はほとんど見られなかった。

- ◆ 「工学部」では「EM:機械工学科」「EA:航空システム工学科」がやや高めで、「ER:ロボティクス学科」が全体的に低かった。そして、「K:この科目の満足度」は学科による差が見られなかった。
- ◆ 「環境・建築学部」は全体的に高かったが、「VD:建築都市デザイン学科」で肯定的な意見が多かった。そして、「VE:環境土木学科」は「A:事前の興味」「K:この科目の満足度」が高かった。
- ◆ 「情報学部」は学科による差が少なかったが、「IP:心理情報学科」で低い項目がいくつか見られた。
- ◆ 「バイオ・化学部」では「BC:応用化学科」が全体的に高めであった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「専門プロジェクト科目」は「事前の興味」「積極性」「教員の熱意」「満足度」など、どの指標を見ても充実感が感じられた。また、一般科目では「人間形成基礎科目」と「英語科目」の評価が高かった。

- ◆ 科目区分別の比較では、ほとんどの項目で「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多く、「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」など、多くの項目で高い評価であった。
- ◆ 一般系の科目では「人間形成基礎科目」「英語科目」で肯定的な意見が多く、「人間形成基礎科目」では特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」の高い点が特徴的であった。
- ◆ 専門系の科目では「専門プロジェクト科目」の高さが突出しており、全体的には「専門コア科目」「専門基礎科目」の順にスコアが低下していた。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「A:積極・満足型」はH17から継続的に増加が続いており、
今回は85.0%となっていた。学年別では「1年次生」と「3年次生」、
学部別では「V:環境・建築学部」で「A:積極・満足型」が多かった。

- ◆ 「A:積極・満足型」は85.0%と非常に多かった。ただし、内訳を見ると「満足度」も「積極性」も「まあまあ」という学生が49.4%であり、全体の半数を占めていた。
- ◆ 「A:積極・満足型」はH17より増加傾向にあったが、前回からも1.1%増加しており、これまでで最も多くなっていた。
- ◆ 学年別に見ると「1年次生」と「3年次生」で「A:積極・満足型」が多かった。
- ◆ 学部間の差は大きくなかったが、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」で最も多く、「E:工学部」「B:バイオ・化学部」「I:情報学部」の順となっていた。

<8-2>全体のサマリー

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようなになる。

- 93.5%が授業に満足と回答しており、評価は高いと言える。そして、87.2%は熱意を持って授業を受けており、教員の熱意を感じたという意見も92.9%と高かった。
- 「満足度」「積極性」など、すべての項目で前年を上回っており、これまでで最も高い評価となっていた。授業のサポートツール類の評価も上がっていた。
- 全体的に「1年次生」と「3年次生」で肯定的な意見が多かったが、「1年次生」は「事前の興味の低さ」が目立っていた。また、「2年次生」は積極性が弱いのではないかと思われた。
- これまでの同一学生群で見られた「1年次の後半」「2年次」の中だるみが見られないようになってきている。そして、「現3年次生」と「現4年次生」はこれまでにないほど良い状態であった。
- 「環境・建築学部」は全体的に良い状態にあった。一方、「情報学部」は全体的に低く、特に「事前の興味」の低さが目立っていた。
- 同一学部の中では学科間の差はそれほど小さくなく、同じような傾向であり、「授業の満足度」に関しても学科による差はほとんど見られなかった。
- 「専門プロジェクト科目」は「事前の興味」「積極性」「教員の熱意」「満足度」など、どの指標を見ても充実感が感じられた。また、一般科目では「人間形成基礎科目」と「英語科目」の評価が高かった。
- 「A:積極・満足型」はH17から継続的に増加が続いており、今回は85.0%となっていた。学年別では「1年次生」と「3年次生」、学部別では「V:環境・建築学部」で「A:積極・満足型」が多かった。



- ❖ 93.5%が授業に満足し、他にも「積極性」「教員の熱意」など、すべての項目で以前より肯定的な意見が増加しており、数字上はこれまでで最も良い状態と言え、大きな課題はないものと思われる。
- ❖ 同一学生群の時系列変化では、これまでは「1年次の後半」「2年次」で中だるみが見られたが、その傾向が弱まってきており、これらの変化を詳細に見ていく必要があると思われる。また、「現3年次生」と「現4年次生」はこれまでにないほど良い状態であり、この要因にも注目する必要があると思われる。
- ❖ 学部別では「環境・建築学部」、科目区分では「専門プロジェクト科目」が良い状態にあるが、これは以前と変わっていなかった。これも変わらない要因があるためであり、継続的に注目していくべきポイントと言える。